

8B-2 no. 53

年少労働調査資料 第52集

漁業に従事する年少者の 労働実態調査結果報告

昭和38年12月

労働省婦人少年局

目 次

はしがき	1
I 調査の概要	2
1. 調査の目的	2
2. 調査時期	2
3. 調査対象	2
4. 調査事項	2
5. 調査方法	2
II 調査地点の概況(A)	5
(1) 閉鎖型漁村	
1. 青森県北津軽郡小泊村	5
2. 岩手県宮古市重茂	8
3. 滋賀県近江八幡市沖ノ島	10
4. 広島県尾道市吉和町	12
5. 高知県須崎市須崎	14
6. 長崎県南松浦郡上五島町	17
(2) 中間型漁村	
1. 北海道松前郡松前町	20
2. 千葉県勝浦市豊浜	23
3. 福井県丹生郡越前町小楢	25
4. 鳥取県岩美郡岩美町網代	27
5. 山口県吉敷郡秋穂町	29
(3) 都市近郊型漁村	
1. 北海道厚岸郡浜中村	32
2. 茨城県東茨城郡大洗町	35
3. 愛知県豊橋市並芝	38
4. 鹿児島県薩摩郡志布志町	40
III 基礎調査の結果(B)	42
1. 卒業者中在村者の状況	42
2. 家族構成	43

Ⅱ. 担任教師および学校当局の所見（Ⅱ・学校調査結果）	4 5
1. 父母の職業および学歴	4 5
2. 家庭の生活の程度と家庭の教育に関する態度	4 5
3. 年間欠席日数および欠課時間数	4 6
4. 学業成績および健康状態	4 8
5. 年少者の漁業就労に対する学校当局および担任教師の意見	4 9
Ⅴ 漁業に従事している年少者の労働の実態（Ⅴ・個人調査結果）	5 0
1. 調査対象年少労働者数	5 0
2. 住居の種類および職業の紹介者	5 0
3. 家業、被雇用別の年少労働者数	5 2
4. 経験年数および操業時の受持の仕事等	5 2
(1) 経験年数別年少労働者数	5 2
(2) 操業時の受持の仕事	5 3
(3) 通常行なっている雑用の種類と年少労働者	5 3
5. 年間労働と仕事の場所および雇用関係	5 4
6. 年少者の生活時間	5 4
(1) 生活時間	5 4
(2) 労働時間および余暇時間等に関する意見	5 5
7. 休日等	5 6
休日日数	5 6
8. 賃金の支給およびその使途	5 6
9. 1ヵ月当りの小遣金額およびその使途	5 7
10. 寝室の広さおよび事業主や家族との同居別居の別（雇用者のみ）	5 8
11. 労働による災害、疾病	5 8
12. 仕事のつらさ	5 9
(1) 仕事のつらさ	5 9
(2) 仕事を楽にする方法	5 9
13. 年少者の収入の家計における地位	6 0
14. 健康および疲労の状況	6 1

15. 長男の財産の相続についての意識	6 2
16. 余暇時間の過ごし方	6 3
(1) 出漁した日の余暇	6 3
(2) 出漁しない日の余暇	6 3
17. 新聞の閲覧およびラジオ、テレビの聴視	6 3
(1) 新聞の閲覧状況	6 3
(2) ラジオの聴取状況	6 4
(3) テレビの聴視状況	6 5
18. 娯楽に関する問題	6 7
(1) 映画の観覧状況	6 7
(2) 飲食店への出入および飲酒、喫煙	6 7
(3) 県外旅行の経験の有無	6 7
(4) パチンコおよび読書	6 7
(5) サークル・クラブ・グループ等への参加	6 8
19. 将来についての希望と政府への要望	6 8
20. 今一番困っていることおよび悩み	6 9
Ⅶ 世帯および家族の状況	7 0
1. 世帯員数	7 0
2. 家族の類型	7 0
3. 世帯の収入源	7 1
4. 世帯員の出稼の状況	7 2
5. 他出家族数と年令	7 2
6. 漁業従業世帯の基幹労働力	7 2
7. 所有網および家のくらし	7 2
8. 年間収入額別世帯数	7 4
9. 土地の所有状況および住居の状況	7 5
10. 家業を始めてからの世代数	7 7

は　じ　め　に

婦人少年局では年少労働者が働いている産業または職業における年少労働実態調査を実施し、その実態を把握して年少労働者の保護福祉のための資料としてまいりましたが、昭和37年度の調査の一つとして漁業に従事する年少者の労働実態を調査いたしました。

漁業に従事する年少者は、地方的な慣行にしたがい各種の形態で古くから労働を行っていますが、一般社会状況の変化にともない、その実態は様々の形態で行なわれていることが予測され、ことに学令児童については、その就労形態から就労が学業におよぼす影響が大きく、成長期にある年少者の心身の発達への影響も少なくないことが予想されます。

従つて、その就労年少者数は少数ではありますがその実態を把握し、その保護福祉を推進することは、比較的におくれた労働形態の分野における就労保護の立場から大切なことであると存じます。

以上のことからこの報告書が、年少者のみならず、漁業協同組合指導者、中学校の先生方、漁村行政にたづさわる方々、年少労働者の労務管理を担当している方々にとつて、多少ともお役に立てば幸ことに幸と存じます。

おわりに調査の実施にあたり水産庁関係担当官をはじめ、関係道県関係係官、漁業協同組合、調査町村関係係官、中学校ならびに各方面の方々に多大の御協力をいただきましたことを心より感謝申し上げる次第でございます。

昭和39年2月

労働省婦人少年局

I 調査の概要

1. 調査の目的

漁業に従事する年少者は、地方的な慣行にしたがい各種の形態で古くから労働を行なっているが、一般社会状況の変化にともない、梶子制度、南京小僧(山形)など一部はその実態すらすでに過去のものとなり、また一方にはその名称にかかわらず昔ながらの実態をとどめて、さまざまな形態において労働が行なわれていることが予測される。

ことに一部の学令児童は義務教育すら十分に受けることができず、長期欠席して漁業に従事していることもまたよく知られているところである。

これらの学令児童生徒については、その就業形態から学業におよぼす影響は大きく、また成長期にある年少者の心身の発達への影響も少なくないことが予想される。

婦人少年局においてはこのような問題を内蔵する漁業に従事する年少者の実態の一端を明らかにし、その保護福祉を推進する上の基礎資料を得ることを目的としてこの調査を実施したものである。

2. 調査時期

昭和37年1月～10月

3. 調査対象

調査地の選定については、主として沿岸および沖合漁業についてその漁業形態、年少者の労働形態等の観点より漁村を分類し代表的とみられる14道県15地区をえらび、漁業に従事する年少者および長欠就労児童をその対象とした。(調査地点表 参照)

4. 調査事項

- (1) 市町村の概況
- (2) 世帯に関すること
- (3) 年少労働者の生活に関すること
- (4) 学校生活および家庭状況に関すること

5. 調査方法

対象地区をふくむ市町村役場、市町村内関係団体等より資料の蒐集ならびに聴取を行ない、概況調査を実施するとともに、36年3月又は37年3月中学卒業在村者に対して基礎調査、個人調査対象者の属する世帯を対象として、面接により世帯及び家族調査を実施し、さらに、漁業に従事する年少者(長欠就労児童をもふくむ)を悉皆(又は無作為抽出)の面接調査を行ない、また年少者の在学または卒業した学校に対し学校調査を行なった。

なお分析にあたっては漁村の特質により典型的に都市近郊型漁村、閉鎖型漁村、中間型漁村の三つの形態に分類して比較しつつその特質を把握することとした。

① 都市近郊型漁村

漁村から通勤可能のところに都市が発達しており、また、生活様式をはじめとして、経済的、政治的、文化的影響を比較的大きく受けており、従つて若年労働力の流出もまたいぢゝるしい漁村。

② 閉鎖型漁村

漁村が都市から大きくへだたり、あるいは社会的要因によつて、生活様式をはじめとして、経済的、政治的、文化的に他の地域から閉鎖的な漁村。従つて若年労働力は住込の形で他出するか、または村内にとどまつて主として漁業に就労するかのいずれかである。

③ 中間型漁村

(1)(2)の漁村から見て都市への通勤は可能ではないが、あまり遠隔ではない地域に都市があり、それ等の都市からの経済的、政治的、文化的影響も多少みられ、従つて若年労働力の流出もまた中程度にみられる。

(1) 閉鎖型漁村

- (i) 青森県北津軽郡小泊村
- (ii) 岩手県宮古市重茂
- (iii) 滋賀県近江八幡市沖ノ島
- (iv) 広島県尾道市吉和町
- (v) 高知県須崎市須崎
- (vi) 長崎県南松浦郡上五島町

(2) 中間型漁村

- (i) 北海道松前郡松前町
- (ii) 千葉県勝浦市豊浜
- (iii) 福井県丹生郡越前町小織
- (iv) 鳥取県岩美郡岩美町網代
- (v) 山口県吉敷郡秋穂町

(3) 都市近郊型漁村

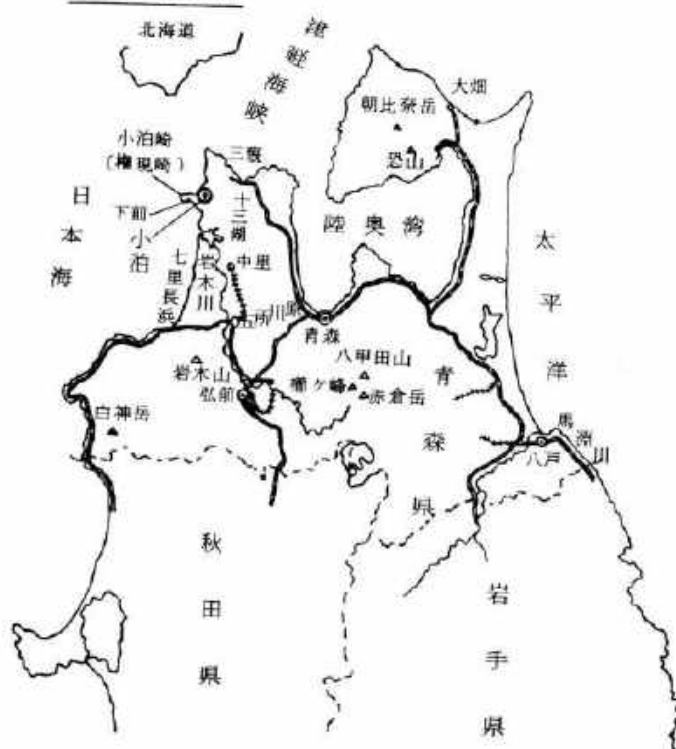
- (i) 北海道厚岸郡浜中村
- (ii) 茨城県東茨城郡大洗町
- (iii) 愛知県豊橋市前芝
- (iv) 鹿児島県姶良郡志布志町

〔 調 査 地 点 表 〕

道 県	市 町 村 名	選 定 区 分	年 月 日	漁 獲 物
北海道	厚岸郡浜中村	道東漁村	3 7 8	こんぶ
	松前郡松前町	道南漁村	3 7 9	いか
青 森	北津軽郡小泊村	裏日本北部漁村	3 7 1 0	いか
岩 手	宮古市重茂	表日本北部漁村	3 7 7	ぶり、いか、あじ
茨 城	東茨城郡大洗町	表日本中部磯浜漁村	3 6 1	ぶり、たこ
千 葉	勝浦市豊浜	表日本中部漁村	3 7 5	
福 井	丹生郡越前町小権	裏日本中部漁村	3 7 1	定置網
愛 知	豊橋市前芝	浅海養殖漁村	3 7 1	のり
滋 賀	近江八幡市沖ノ島町	淡水漁村	3 7 5	
鳥 取	岩美郡岩美町網代	裏日本西部漁村	3 7 1 0	小型底曳
広 島	尾道市吉和町	瀬戸内海漁村	3 7 8	家舟
山 口	吉敷郡秋徳町	瀬戸内海漁村	3 7 1 1	1本釣
高 知	須崎市須崎	表日本中部漁村	3 7 7	ぶり、かつを
長 崎	南松浦郡上五島町	離島漁村	3 7 2	いか、その他
鹿児島	薩摩郡志布志町	表日本南部漁村	3 7 5	
計	1 4 道 県 1 5 地 点			

Ⅱ 調査地点の概況 (A)

青森県小泊村



Ⅰ 市町村の概況 青森県北津軽郡小泊村

1. 地 形

小泊は日本海に面した津軽半島の西北端に位する漁村で、日本海に突出した権現崎の北部が小泊で、南側に下前の二港をもち、鎌倉時代、十三湖畔の福島城構築当時から蝦夷島（北海道）との交通の要港であつた。

2. 人 口

戸数約1066戸、人口6,200人（男3,092人、女3,108人）で村の70%は漁業に、また、10%は農業に依存している。漁民の1人平均年間生計費は平均して7万円程度かかるので、漁業による収支がとれず従つて中学卒業者は漁業以外の県外就職のために、東京、名古屋、北海道等へ65%も就職している。

3. 産 業

当村の農地は高地にあり、塩風による被害が大きく収穫物は少ない。しかし村の人口の約70%が漁家で、いか釣りを主体に海藻採集その他一応釣が盛んで、するめの加工は家族従業員によつて行なわれている。

4. 教育と文化

中学生徒数507名、教員数24名、1学級当り33名となつている。

青年の指導は、夏季には出稼ぎに行くので団体行動がとりにくく、残つた者を対象とすれば資金がかかりすぎる、といった状態である。

また、浜に残る子弟は定時制高校にゆくようよびかけをしているが、海が汀になると生計維持のため、いか釣りに出かけるので、欠席が目立つて多くなり、中途退学者も出てくるといった現状である。

Ⅱ 漁業について

当地の漁業は零細な規模を脱しきれず、漁法についても自分が使用している漁具あるいは漁法を他人にみせたがらない慣習が根強く存在している。

1. 季節的繁閑

冬季間は季節風が強く、出漁不可能な日が多くなつている。

1 1月～ 1月……………油ざめ底刺網

3月～ 6月……………もうか延縄釣

4月～ 6月……………小型定置網

5月～ 8月……………海藻採取

8月～12月……………いか一本釣

1 2月～ 4月……………たい、めばる一本釣

以上が定期的に行なわれているが、シケ等があるので年間平均出漁日数は約200日である。

2. 主要魚種別年間水揚量

主要魚種別年間水揚量

魚 種	数 量	金 額
するめいか	760,000Kg	21,000千円
めばる	60,000	4,000
ぶり	7,000	6,000
ます	50,000	8,000
たい	10,000	1,000
油ざめ	200,000	5,000
やりいか	40,000	4,000
その他の魚類	700,000	20,000
海藻類	110,000	15,000
貝類	2,000	200
たこ	6,000	400
計	1,945,000	84,600

資料出所 小泊漁協組

3. 小泊漁協加入者数および漁船数

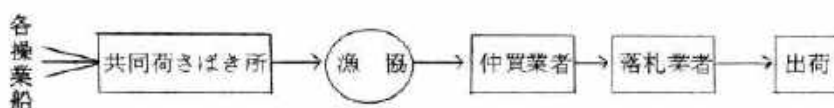
昭和37年10月1日現在の小泊漁協の正組合員は373名、準組合員は169名で、動力船は139隻、無動力船145隻である。そのうち動力船の内訳をみると20～29t1隻、10～20t13隻、3～5t1隻、3t未満124隻である。小泊漁協は漁業研究会などを結成して進歩的な形態をとっており、最近は組合員特に婦人層がめざめ、組合立の加工場を設立し、婦人部員の現金収入の途など考えている。

4. 漁獲物の種類およびその捕獲方法

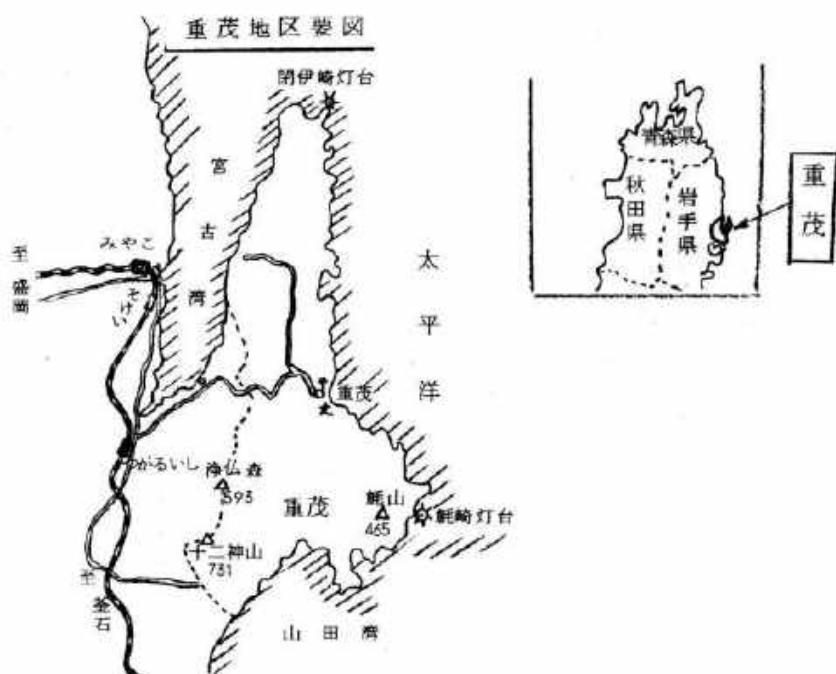
捕 獲 方 法	魚 種 別
ます流刺網・延縄釣	ます
底 刺 網	めばる、ほつけ、油ざめ、その他
い か 一 本 釣	するめいか
そ の 他 一 本 釣	めばる、そい、すずき、たい、ぶり、ひらめ
もうかさめ延縄釣	もうかさめ
その他・延 縄 釣	あばらめ、そい、どんこ、油ざめ、たい
小 型 定 置 網	やりいか
採 貝	さざえ、かき
採 藻	わかめ、えご、てんぐさ、もづく
そ の 他	たこ

5. 漁獲物の処理方法

漁獲物は総て共同荷さばき所に水揚げされ、下図のように行なわれる。



出荷は青森方面にトラックにより行なうが、積雪のため交通杜絶の時は漁船により運搬される。



I 市町村の概況 岩手県宮古市重茂

1. 地 形

陸中海岸国立公園の中央に位置する宮古市の南部、市の中心部から約2.5キロの地点で全体が重茂半島を形作り、北に宮古湾、南に山田湾を抱いて太平洋に突出て、南北40キロに及ぶ。山と海に狭まれ耕地に恵まれないが、海岸線は岩礁が入りくんだ曲形のリアス式海岸で美しい。しかし漁獲地が少なく、極めて悪条件下にあり地元民の大部分が移漁業である。

2. 人 口

漁家の子弟も就学、就職などにより、郷里を離れてゆく傾向が目立つたが都市生活の苦しきから、最近再び帰村して分家するものが多く、そのため戸数は増加しているが人口は減少しており(432戸 2,642人)、15才以上の就労人口はその約4.5%(1,200人)と推定される。

3. 産 業

全地域世帯の80%が漁業と農林業による兼業世帯で、農地1.3ヘクタール、畑11.0ヘクタールで米、大麦、大豆、馬鈴薯等2年3毛作で自給程度であるが、主に漁業に生計を託している。また工業関係は全くみられない。

4. 教育と文化

重茂地域は広範囲であるが、中学校は一校生徒数219名で、漁繁期は学校を休む生徒が出

てくるので、日に2回漁協直営のスクールバスを出している。

文化程度は市街地から遠い関係もあつて、あまり高くないが、最近、漁協が中心となり「まず何よりも経済的基盤をつくる」ことに重点を置いている。

Ⅱ 漁業について

漁業収入は明治の頃からアワビ（乾鮑に製造支那に輸出されていた）が本命で収入の大半を占めていた。その他帆船による近海の鮎流し網業が行なわれ、これには船主と船子（かき）の関係もあつたが、動力船の発達に伴い船主と船子関係が消えるとともに現在は純然たる磯漁業のみになり、同時に各世帯が小舟による小企業家となるに至っている。

船溜りのない関係で船の大きさは1トン止まりである。

1. 季節的繁閑

11月～	1月	あわび	} この間に操業日を定め稼動する。
3月～	4月	雑海藻	
5月～	6月	わかめ	
5月～	7月	うに	
9月～	10月	昆布	

以上のうち最繁期と重複する期間が最も多忙の時期（5月中旬～6月末・9月中旬～10月中旬まで）となる。8月上旬から9月上旬までの約30日間と、2月上旬から3月中旬までの約40日間が休漁期である。

2. 主要魚種別年間水揚げ量

種 類	数 量 ㎏	金 額 円
若 布	257,681	45,941,488
昆 布	210,986	30,301,560
アワビ	131,334	46,767,502
雑海藻	16,572	2,185,441
うに	272,790	13,159,347
鮮 魚	76,586	5,025,336
計	965,949	143,380,674

資料出所 重茂漁業協同組合調

3. 漁協加入者数および漁船数と就業者数

現在、漁協加入者は370名、動力船244隻うち1トン以上は90隻、無動力船は266隻で合計510隻である。

4. 漁獲物の種類および捕獲方法

(1) ぶり、さば、いわし、さけ、まぐろは定置網

- (2) 若布、昆布は鎌
- (3) あわびはかぎ
- (4) うには手網 により捕獲している。

5. 漁獲物の処理、販売、出荷

主として宮古魚市場（漁協の連合会において経営）に出荷、入札により販売する。



I 市町村の概況 滋賀県近江八幡市沖の島町

1. 地 形

沖の島は琵琶湖にうかぶ島々のうち、一番大きな島で、その周囲は1.2Km、北側は絶壁のためほとんどの家が南側に密集している。そして道は迷路のような路地で1～2本みられる程度で、家は殆んどるる3mくらいである。交通は近江八幡市から船で30分の行程である。

2. 人 口

総人口850人、150戸で土地が狭く、青年層が出てゆくので年々減っている。15才以上の就労者は約580名である。

3. 産 業

当島では農業はみるべきものはないが水産業が117戸で主である。働くことのできる男達
は昼間は殆んど漁に出かけ、また女でも働けるものは夫とともに出かけている。

沖島漁協によれば漁獲高は年々少なくなっているが、労働時間と漁具の改善でこれをカバー
している。他に石材業10戸、商業5戸、その他計150戸である。

第1表 産業別世帯数(昭和37年3月現在)

産 業	戸 数
計	150戸
水 産	117
石 材	10
労 務	12
商 業	5
内 職	3
僧 侶	3
無 職	2

4. 教育と文化

中学校生徒数68名、教員数5名であ
る。

文化教育の実情としては、公民館長が
非常に熱心で、青年団の指導を行なつて
いる。また3年後には本願寺の青少年教
化センターの建設が計画されている。

II 漁業について

かつては石材(みかげ石)を採掘していたが、原石も底をつき、採掘業の衰微により40隻位
あつた石材運搬船が漁業に切替えられた。

漁具は昔のままであるが動力が入れられ、部分的に機械化され、また網糸は化繊にかわつてき
た。

1. 季節的繁閑

漁期は1～2月が漁閑期であるが、月平均就労日数20日、年間250日以上就労している。

2. 主要魚種別年間水揚量

第2表 漁獲高(魚種別) 昭和36.1.1～12.31現在

魚 種	数 量K	金 額千円	魚 種	数 量K	金 額千円
もろこ	13,203	2,821	はい	106	5
すこ	3,498	516	小あゆ	25	3
ひがい	251	58	なまず	142	2
手長えび	1,010	587	わたか	1,733	7
ます	2,039	531	うなぎ	52	15
ぎぎ	265	6	ごり	2,474	118
つつ	930	29	小ふな	11	*
いさざ	2,652	472	たにし	14	2
小えび	10,748	818	み 鯛	10,246	398
はす	2,133	202	皮 鯛	558,730	3,947
雑 魚	596	22	母 貝	11,978	5,211
どす	1,857	38	うぐい	2	
大ふな	59,677	4,000			
こ い	418	23	合 計		19,842

3. 漁協加入者数

漁協加入者は140名である。

4. 漁獲物の種類および捕獲方法

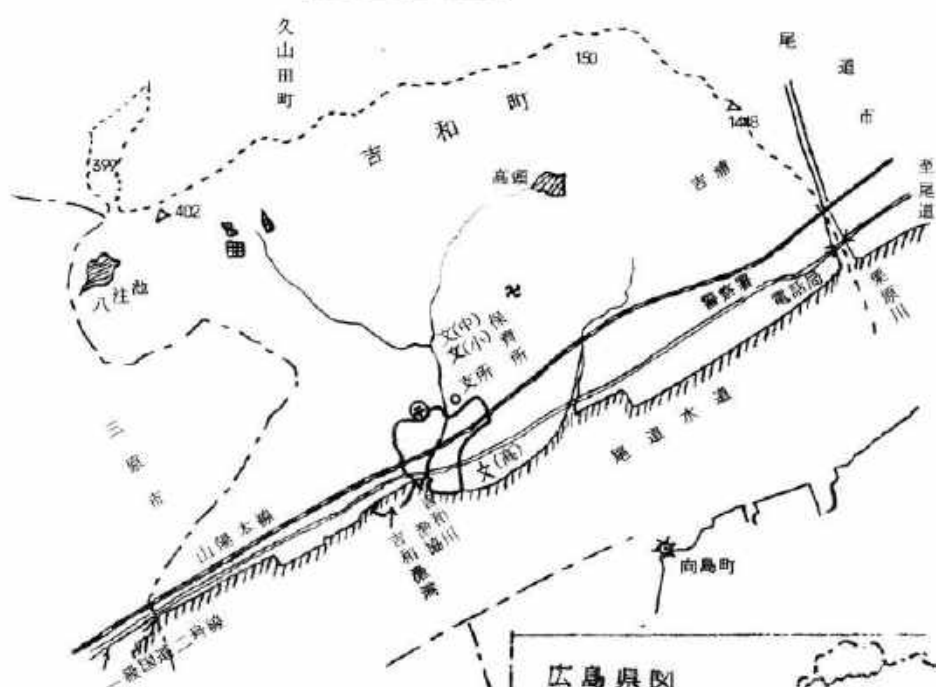
漁獲物の種類については漁獲高のところの表のとおりであるが捕獲方法については次のとおりである。

(1)地引網、(2)小糸網(三枚網、長小糸)、(3)底引網(手ぐり)、(4)竹筒、等である。

5. 漁獲物の処理、販売、出荷

漁獲物の処理については、夏場であれば、鮮度の関係もあつて直接市場へ出荷する場合もあるし、個人商人で売買することもある。

吉和町全図



凡例	人	○	文	田	山	川	寺
	河川	沼	学校	鉄道	道路	池沼	寺院

広島県図



I 市町村の概況 広島県尾道市吉和町

1. 地 形

尾道市の西南部にあつて尾道市とは隣接していて、国道、山陽本線が海岸線に沿つて走つて
いる。西は三原市に、北部は久山田町に接し東は尾道市に接している。南は尾道水道を距てて
向島町と相対している。町のほぼ中央に吉和川が流れていてこの両側に少しばかりの耕作地が
あるが殆んど山におおわれてあちこちに段々畑がみられる。

2. 人 口

当町の人口は15,793名で男7,720、女8,073で、世帯数は3,764である。

3. 産業

当町の産業の事業所構成は漁業は30.6%、農業は28.7%で、漁業兼農業の町であり、こ
れについて、卸小売業が20.2%となつている。その他市部に近接している関係で製造業7.9
%、サービス業9.5%が多い。次に就業者の構成については製造業が20.5%で、次が漁業の
18.8%、農業が18.2%、これに次いで卸小売業12.4%、サービス業が13.3%となつて
いて、製造業、漁業、農業に従事する者で大半を占めている。

4. 教育と文化

中学校は一校で、生徒数953名、教員数31名、1学級あたりの生徒数は約45人である。

なお、出漁期間中の子弟を収容している尾道学寮(250名収容)がある程度である。

II 漁業について

当町の古い漁法は無動力船による一本釣、延縄漁業であつたが、今日では小型機船底びき網
110統、延縄50統、一そうごち網20統、たこば6統、一本釣25%統養殖その他10統となつている。
なお、網子、船子の制度は今日では存在していない。

1. 季節的繁閑

漁場が瀬戸内海であるため繁閑は殆んどないが、最近冬期は休漁する日がたまにある。年間
平均就労日数は220日程度である。

2. 主要魚種別年間水揚量

種 別	水 揚 量 匁	金 額 千円
えび、かに	468	50,184
いかなど	15	525
い か	61	7,747
た こ	699.3	90,209
はも、ふぐ	102	25,901
た い	45	18,000
計	1,390.3	192,566

昭和37年 吉和漁協調

3. 漁協加入者および就業者数

漁協加入者は656名に及び、就
業者数は1,425名である。

4. 漁獲物の種類および捕獲方法

たい、ちぬ、はも、あた
ご、ふぐ、あこう、めばる、延縄漁業
すずき

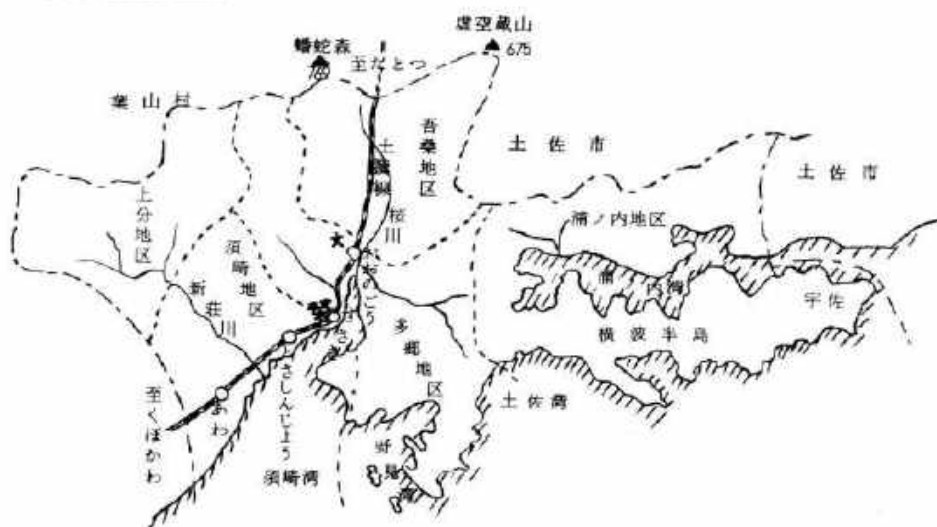
いか、たこ、太刀魚、ぐち、きすこ、ふく、
 かれい、すずき、ちぬ、たい } 一本釣漁業
 えび、かに、こち、雑魚……… 小型機船底びき網漁業

5. 漁獲物の処理、販売、出荷

かれい等については、自家労働により加工し、各自販売しているが、海苔については、連合会を通じて入札販売している。その他の雑魚等については、沖売り、または魚市場において販売される。

凡 例	文 学 校 河 川
--------	-----------------------

須崎市全図



I 市町村の概況 高知県須崎市

1. 地形

須崎市の海岸は沈降性リヤス式であり、須崎港は深く湾入して自然の良港であるが、高潮の被害を受けやすく、宝永、安政以来津波の被害が目立っている。

高知県の太平洋岸のはぼ中央にあり高知市の西方40Kmにあり、須崎港を中心に5地区に分れている。

昭和21年の南海地震では当市は1.2mの地盤の沈下をみている。

2. 人 口

総人口35,089人、男17,158、女17,931、世帯数は7,625である。15才以上の就労者数は13,968人で男8,924、女5,044人(昭和35年10月現在の調査)である。

3. 産 業

当市は天然の良港と無尽蔵の石灰石、林産資源にめぐまれ、これから得られる鮮魚、木材を利用した小規模企業が若干みられるが、最近大工場の誘致により、工場地帯の形成を図ろうとしている。

農業としては約1,000haの水田にめぐまれ、地味も肥沃で、水稻栽培、疎菜園芸、果樹園芸(柑橘類、ビワ)が盛んで、一方紅茶は年間4,000kgを生産している。

水産としては

①網漁業(しらす、いわし等)

繁忙期 4月、5月、9月～12月 年間就労200日

②一本釣漁業(かつお、めじか等)

繁忙期 1月～8月 年間就労100日

③真珠養殖

に大別され、漁家数は約1,700戸、内70%が兼業である。一般に沿岸漁業は近年甚だ不振で零細漁民の生活は苦しい。

昭和32年8月に須崎市は特定工業地の一つに指定され、高知県開発財団と公共事業のタイアップの下に道路、港湾、土地の造成その他工場立地の諸条件の整備を促進して工場誘致の振興に最も力を入れている。漁業については近代化の推進、零細漁民の転業をはかっている。

4. 教育と文化

中学校は6校、生徒数1,938名、教員数106名、一学級当り生徒数44名である。

文化については5地区に公民館があり、その地区の特殊性を生かして活動しているが、青少年の健全育成と同和教育に力を注いでいる。

Ⅱ 漁業について

従来船舶は無動力であつたものが、昭和33年頃より動力化した焼玉エンジン、ジーゼルを使つた漁船が普及してきた。しかし老令漁民の間には無動力船による小釣、曳網によるものが多く、一般に零細漁民の生活は苦しく、失業対策事業の日雇に出るものが多い。

○網子船子の契約

年末か正月に、口頭で日給(360円～500円)や歩合(水揚げ1万円をこえる毎に5歩増

し)についてのとり決めが行なわれる。

1. 季節的繁閑

産業のところで述べたので省略する。

2. 主要魚種別年間水揚げ量

(361～12)

品 名	数 量
かつお	520トン
しらす	166
まぐろ	117
ぶり	65
あじ類	34
いわし類	28
えそ	10
たちうお	12
さば	6
しいら	5
計	963

3. 漁協加入者数および漁船数

加入者数は695名である。

無動力船は78隻83名で、動力船は227隻で675名である。

4. 漁獲物の種類および捕獲方法

種 類	捕 獲 方 法
かつお	一本釣
さば、あじ	一本釣、旋網、敷網
いわし	船曳網(鰈曳網)
しらす	" (")
めじか	延縄、釣
ぶり	定置網

5. 漁獲物の処理、販売、出荷

殆んど鮮魚のまま販売が行なわれるが、“しらす”は共同加工して“しらす干し”として販売する。

6. 経営の形態

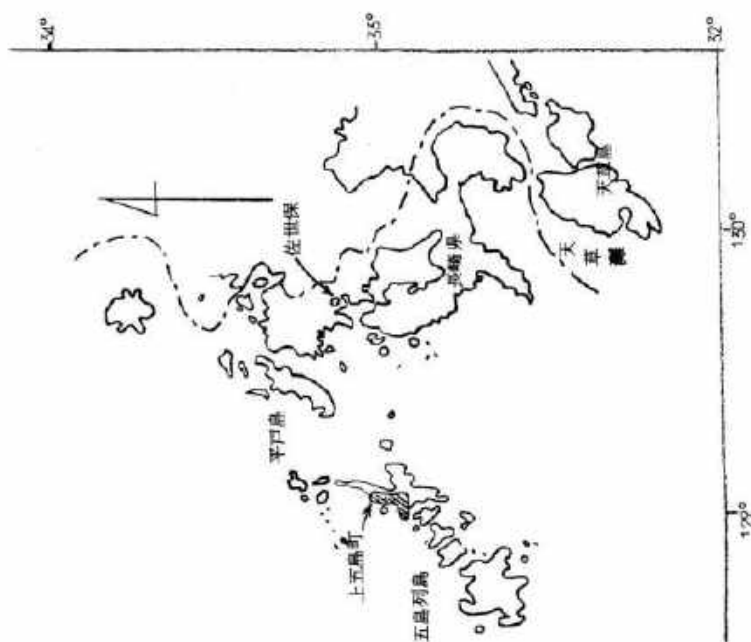
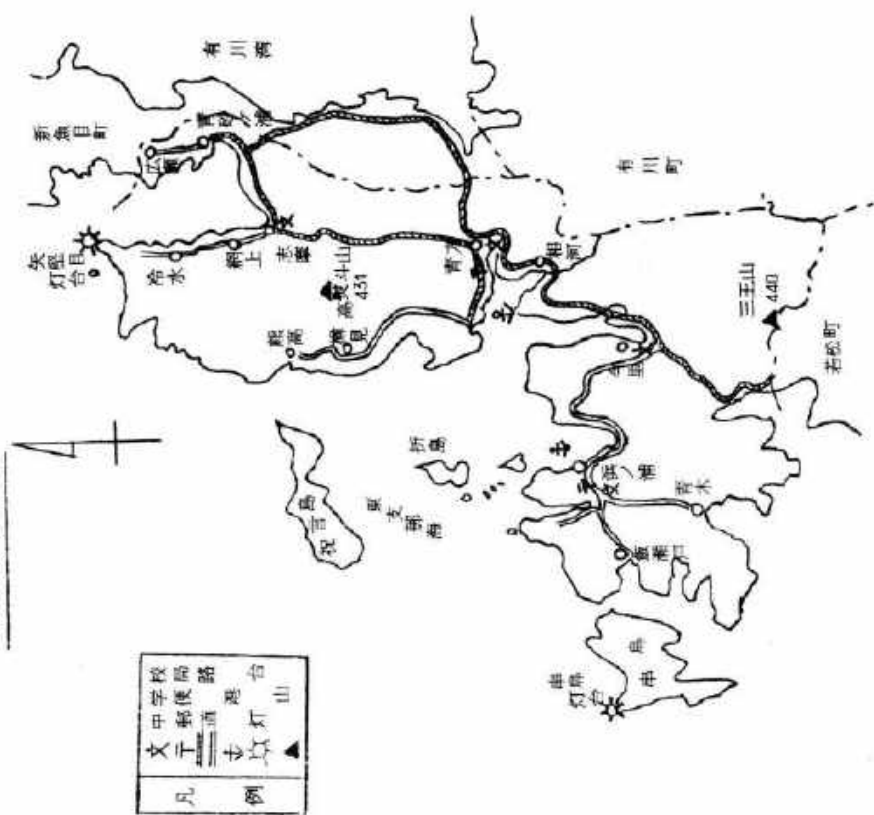
動力船には殆んど機械捲上機がついていて、その他は特別の設備はない。しかし沿岸釣船は無線を備えたものもある。

経営形態は、個人又は共同経営で、所有船舶は805隻にのぼっており、人員も1256名である。

また経理の方法としては、

水揚げ額－大仲経費(燃料費、エサ代、氷代、食費、漁具等)＝残額を、頭割りにして船子(1人役)船主(3人～5人役)で船長、機関長等の役付は1人役に2分～3分の割増をつける場合が多い。

上五島町全図



I 市町村の概況 長崎県上五島町

1. 地 形

五島列島の北部、中通島の西端に位し北部より東南部にかけて新魚目町、有川町、若松町に接し、南部は潮流激しい若松瀬戸があり西部は屈曲した海岸線と沿岸に点在する常住島折島、無人島祝言島、串島、柏島など東支那海を望んでいる。陸地は高岐斗山係(430.6m)三王系により山岳丘陵が起伏し複雑な地形をなし、平坦地は僅かに青方、相河、佐ノ原にみられる程度である。

交通は佐世保港より約90Km、7時間かかり冬場ともなれば欠航もしばしばといつた離島である。

2. 人 口

総人口(中通島11733人・折島230人)11,963人(昭和35年4月現)、世帯数(中通島2257・折島32)2,289である。また15才以上の就労者は、農業に44.1%、これに次いで漁業、水産業養殖業23.5%、林業、狩猟業9%等に多く就労している。

3. 産 業

本町の産業は農業を基幹とし漁業を副業とした半農半漁の形態であるが、耕地は60%が急傾斜の段々畑で経営条件は極めて悪く生産性も低い、近時農業の近代化により蓄産果樹などの成長産業を取入れ、その意欲的努力を見せている。

漁業は東支那海を漁場とする以西底引網漁業及び揚操網漁業の基地であり、この種の近海漁業は経営にも漸く安定をみせているが、零細漁家の漁場である沿岸漁業は益々不振を極めており、僅かに一本釣、延縄漁業が操業しているにすぎない、これら零細漁民の対策として蓄養、浅海養殖等の事業が取り上げられているが、未だ企業化するに至っていない。

4. 教育と文化

中学校4校1,039人、学級26、教員数45人

本校5校2,016人、学級51、教員数63人 } である。同町の青方町では一般に裕
小学校
分校1校 40人、学級2、教員数2人

福な家庭の子弟が多いので、漁業関係の就職は殆んどみないが、他のところでは一般に生活は苦しく、子供の教育、就職等への親の関心はうすい。

婦人会活動はかなり活発で、新生活運動、環境衛生運動等が盛んであるが、これも青方町に集中する傾向が強く、農漁村部落には就業形態、交通の不便等があつて普及し難く、成人教育は現状では全然不可能に近い。

II 漁業について

港湾入江が多く、沿岸並びに近海漁場に出漁して多くの収益をあげていたが、沿岸漁業の衰微と李ライン設定による漁場の制約により、一時不況になつたが、最近は機動力による改善がなされたのでよいきざしがみえてきた。本町の漁業経営者総数は280で個人企業体253、会社4、漁協直営2、共同経営21で、以西底曳漁業、旋網漁業、延縄、一本釣漁業等であり、漁船は317隻、2,162トンである。しかし漁民の強い封建性、利己主義が障害となる点も多く、青少年の離島を促す原因ともなっている。

1. 季節的繁閑

機船底曳網は7月から8月の漁船修理期を除いて毎月操業、大中型旋網は一年中、沿岸小型旋網4月～5月、7月～1月が漁期、小型底曳網6月～3月が漁期で釣延縄は一年を通じて操業する。

2. 主要魚種別年間水揚量

(36年1月～12月)

魚 種	数 量
れんこ 鯛	1,776,988Kg
かながしら	2,953,082
い か	1,700,287
え そ	891,630
ま あ じ	571,272
く し ぐ ち	542,729
え び	328,980
その他の鯛	303,977
その他の魚	7,472,541
か れ い	378,175
海 藻 類	2,484
計	16,922,145

3. 漁協加入者数、漁業関係事業場数および就業者数

正組合員数387、準組合員数110、計497名である。

事業場数は個人が135、共同1、その他8、計144がある。

就業者数は男1,148、女127、計1,275名である。

4. 漁獲物の種類と捕獲方法

漁 獲 物	捕 獲 方 法
あじ、さば、いわし	旋 網
たい、ぐち	機船底曳網、一本釣、延縄
ぶり、いか	定置網、一本釣、延縄
え び	小型底曳網、刺網

5. 漁獲物の処理、販売、出荷

機船底曳網漁業は漁業に運搬船が出向き、佐世保市の魚市場へ出荷する。

その他の漁業は組合で地元消費分を競売ののち、残りを佐世保魚市へ出荷する。また個人業者は地元で販売する。



I 市町村の概況 北海道松前郡松前町

1. 地 形

当町は渡島半島の西南端に位し、東北は大千軒岳（2,136m）を起点として南に前千軒岳、袴腰、松倉の諸峰がそびえ西に福島町、檜山郡上の国村に接し、南端白神岬は北海道の最南端に位して津軽海峡の西口を形成している。

河川としては大鵜津川、小鵜津川及び部川があり、その流域には豊饒肥沃な農耕地を有し、道路は海岸線に沿って東西に帯状に走り市外地を形成している。

2. 人 口

人口は急激な変動はなく、沿岸漁業の不振のため季節的出稼の一時転出、新学卒者の他地方への就職が大きな原因で、世帯数は増加しているが人口は減少している。昭和35年で総人口18,534名（男9,947、女9,587）1世帯平均人員5.2、世帯数3,780である。

3. 産業

昭和36年度北海道農業基本調査に表われた農家数は2,235戸、総耕地面積は1,222haで1戸当り0.58haの零細農家が過半数をしめ、生産額も僅少であるが、数年来より遺田事業により米作農業への切替と畑作もビート等の工業作物類の普及で漸次生産の近代化が進みつつある。

また漁業については、無動力船が多かつたが、数年来から漁船の性能の向上に努めた結果小型による機関のジゼル化が普及してきて海難事故も少なくなり、多角経営による小型漁船の生産は目ざましい伸長を示し、鮮魚の漁獲高の増加等明るい見通しである。

その他工業では食料品製造業が46.7%、化学工業20.0%、木材木製品製造業13.3%、その他となつている。

漁業不振の場合の食料の確保のため、3アール以上の畑作を奨励している。また漁場から青森、函館は同じ距離なので価格の高い青森に荷揚する傾向があり、冷蔵設備の完備と価格の安定を計っている。

4. 教育と文化

中学校6、教員数60、総生徒数1,649（男841、女808）で義務教育施設の充実に努めている。

また社会教育も公民館、青年団、婦人会等があり盛んに動いている。

Ⅱ 漁業について

大正2年頃までにしん、および沿岸採藻、採貝、自由漁業、いか釣、昭和18年頃まで、いか釣漁業、採藻、採貝、いわし定置（小）、いわし旋網、現在では昭和18年頃までと同じのほか、ます延縄、小型流網等である。

網子、網元の契約

いか釣漁業については乗子70%船主30%の割合で生干品の尾数により船主へ納める。はつけ旋網では就業員50%、網主50%で、網主は燃油その他を負担し、就業員は食費を負担する。ます延縄、流し網もはつけ旋網と同様である。

(注) 網子^{*} 自分はあの網元の手だと決め、網元もあの者は自分の網子だと意識し出漁の呼出をかけ、網子もこれに応じている。このような関係を網元、網子の関係という。

1. 季節的繁閑

3月～5月はつけ旋網、ます延縄、ます小流網、この間の就業日数20日位、6月採藻、7月～12月いか釣、就業日数80～85日、1月～2月漁閑期となつている。

2. 主要魚種別年間水揚げ

漁 獲 高 (単位 ヤロ) (昭和36年中)

	数 量		数 量		数 量
い わ し	6,392	め ん け	153,906	ほ や	305,720
さ ば	42,808	さ め	25,890	うに、なまこ	112,064
さ ん ま	53,263	い か な ど	249,375	こ ん ぶ	635,820
ふ り	2,233	その他の魚類	136,048	わ か め	1,550,897
ま す	311,950	あ わ び	26,678	て ん ぐ さ	76,160
ひ ら め	24,965	さ ざ え	3,665	ふ の り	1,266
か れ い	33,098	するめいか	14,020,425	ぎんなんそう	68,644
た ら	133,243	その他のいか類	175,052	あまのり	46,823
すけそうだら	160,148	た こ	259,852	その他の藻類	11,428
ほ つ け	132,2785	その他の水産物	400	ま ぐ ろ	8,095

3. 漁船数・就業者数および協同組織

漁船数は二つの漁協併せて60隻、無動力船278隻で動力船のうち0～3tが10隻、3～5tが20隻、5～10tが5隻、10～20tが25隻である。

清部漁業協同組合には組合員数は233名、江良漁業協同組合には組合員数379名が加入している。

4. 漁獲物の種類および捕獲方法

「ほつけ」旋網、一本釣で「ます」は延縄、流網、「若布昆布」は鎌刈、ネジリという方法で、「いか」は手釣、「さめ」は延縄で捕獲される。

5. 漁獲物の処理、販売、出荷

ほつけ、ます、さめは鮮魚処理することによつて漁連が販売を引受けることになっている。また若布、昆布は乾燥処理され、あとは鮮魚の場合と同じである。いかは乾燥してするめとして出荷、漁連にて販売する種前になっている。

6. 経営の形態

ほつけ旋網………9統 100人

ます延縄………7統 21人

ます小流縄………2統 6人

いかつり………18統 175人

若布………258統 258人

{ 9統 発電機5K
 1" " 3K
 8" " 1～0.5K

(注) * 統 通常網一張について1カ統と呼称し、これに要する労働者の人員は、その網の種類により5、6人から100人におよぶのがみられる。

が開けているが、北部を東西に清澄山系が縦走しているため山間や谷が多いので集団耕地に乏しい状態であるから、やはり当市の産業の中軸をなすものは水産物であり、いわゆる「漁業の町」であるといえることができる。

豊浜においてはそれが一段とはげしく漁村という感じが受けとれ、山、海に迫り……といったところである。

2. 行政、教育及び文化

特に漁業に対する行政面では、漁業振興対策審議会があり、市の重要産業である漁業の振興を図るための基本方針及び方策の樹立等について必要な事項を調査するために設置された機関である。漁港の整備拡充にはどの漁業協同組合も力を入れている。

教育の分野では、小学校12校、生徒数4,562名、中学校4校で生徒数2,136名、高等学校1校で741名である（昭和35.4.1現在）高等学校の課程別も、水産課、漁業課、水産製造課、無線通信課等に力を入れている。このうち勝浦中学校は1,233名で（男626名、女607名—369現—）あり、豊浜小学校588名（男289名、女299名）—369現—という状況である。

漁業、農業について、各地域別に学習活動を行ない、社会教育面においても青年学級、婦人学級等が普及し、市民の芸術作品展示会や、移動図書館等も盛んである。

漁業協同組合員数も勝浦では306名で漁船数も動力船1トン～30トン80隻で340人、無動力船1トン未満90隻で180人の就業者がいて、殆んど漁獲物は直接陸揚され市場荷揚場で仲介人に入札処理される。出荷先は主として京浜地区、さばは京浜の他関西えも出荷される。豊浜での漁獲物、いか、さば、貝類等は東京中央市場に直接出荷、海藻類はその場で入札または漁連の系統販売事業によつて決定される。

[illegible]

凡			文		六	晋		
例	道 路	役 場	字 校	郵便局	名所旧跡	神社寺院	河 川	山 岳



I 市町村の概況 福井県丹生郡越前町

1. 地 形

当町は日本海に面し後方は若須・六所の連山を経て織田、宮崎、白山の町村に連なり北は越前、南は河野の両村に接している。

面積3,661.9K㎡で海波の侵蝕により丘陵、段丘、山が多く、農耕地に適したところが、極めて少なく、天然の良港に乏しい。

2. 人 口

人口は総世帯数2,082戸、人口数(男5,213、女5,513)一昭和36年現在一で過去5ヶ年(昭和31年～36年)の人口動態は、出生率からみると585名の自然増加を示しているが、転出入からみると、489名の減少となつている。これは漁業を中心とする本町においては、漁業の不振により他府県への就職、出稼ぎ、転出、及び季節の出稼ぎが増加することによるものである。

3. 産 業

主な産物としては漁業に関連した水産加工物であるが、この中でも、いわし、いか、かに、さば等が漁獲物の50%を示しているのをみてもわかる。水産加工品としては、他に塩干品、海藻類、素煮干品があげられる。

その他農産物としては、耕地面積(2,094ヘクタール)の関係もあつて、米、麦、甘しよ、馬鈴薯、そ菜、雑穀等、また林産物としては主に用材、まき、木炭等でいづれも少ない。

4. 行政と教育、文化

越前町では漁業の予算が殆んどで漁港改築事業に向けられている。金額として2,175.8千円で漁港改築補助金1,000万円その他一般水産振興費1,226千円その他となつているが、特に定時制高校の新設に際し水産科を設ける等の計画配慮がなされている。

中学校の生徒数884名(男456名、女428名)、その他公民館等がある。

5. 協同組織

経営総数366(個人353、組合経営11、会社2)、漁業協同組合数9、組合員総数1,597名、漁業協同組合職員数60名、資本金総額1,984,210.0円、動力船数329隻となつている。主要漁獲高一昭和55年1月現在一は、いわし、いか、かに、さば等その他かれい、ぶり、にぎす、えび、あじ、たい等約1,040.0トンで、商工業171戸(一般卸売20、織物衣服17、食料品86、家具25、その他23)、工業27戸(食料品12、繊維工業2、木材6、その他7)となつている。

鳥取県略図



I 市町村の概況 鳥取県岩美郡岩美町網代

1 人 口

昭和35年10月現在、総人口1,633人(男797人、女836人)であるが、水田がなく、畑4反たらずで漁業に生計を託している状態であるが、漁獲物は年々減少し近年若年層の他産業へ就職するものが多く、世帯人口の増加は殆んどみられない。

また、15才以上の就労者は約500人程度である。

2 産 業

純漁村で、漁業以外には8戸程度の雑貨、野菜販売業があるくらいである。

3 教育と文化 (昭和37年10月現在)

中学校生徒数1358名(男683名、女670名)、1学級当りの生徒数約50名である。

文化活動は、公民館活動を中心に公共心および経済的観念の育成、集合時刻の厳守等が行なわれている。その他有線放送の設備等により文化活動の育成に努めている。

また、漁港の整備、環境衛生及び漁業に従事するもの、男女青年団の育成、公民館活動等が行なわれている。

II 漁業について

仕事の変遷

当地は日本海に面ししけが多いため小型の無動力船では現代漁撈法に適合せず、小型船の動力化、中型底曳船にも機械の導入をはかり漁探知機、無線機、方向探知機等の取付が行なわれるようになった。

しかし古い漁法もなお取入れられているが、一部のひが使っているのみである。

網子、船子の契約等はなされていない。水夫も投資者で歩合給であり、基本給の制度はとっていない。

1. 季節的繁閑

繁忙期は9月から翌年の5月までで閑期は6月から8月までである。中型底曳船については年間平均就労日数は180日から200日、小型船による一本釣船は120日である。

2. 主要魚種別年間水揚量

かに、が最高で1,402,981Kgこれについてかれい、569,040Kg、いか、364,873Kg、たら、204,144Kgが主で、あじ、しいら、あご、(とび魚の小さいものを云う) 貝類、いわし、たい、藻類、で合計3,641,598Kg、金額にして218,753千円である。

3. 漁船数及び就業者数

昭和37年10月現在、底曳船は23隻で250人、小型動力船は119隻で203人である。

4. 漁獲物の種類および捕獲方法

- 底曳網 23 統……かに、かれい、たら、はた、えび
- 浮敷網 8 統……小いわし、小あじ
- 旋網 3 統・流刺網 13 統……あじ
- 底刺網 5 統……はまち
- 一本釣……いか、はまち、たい

5. 漁獲物の処理、販売、出荷

組合が受託販売をし販売、入札(しいら、あご、いわし)がなされる。出荷については各自が出荷するもので主に京阪神、名古屋、津山、岡山、鳥取、広島等へ出される。

6. 経営の形態

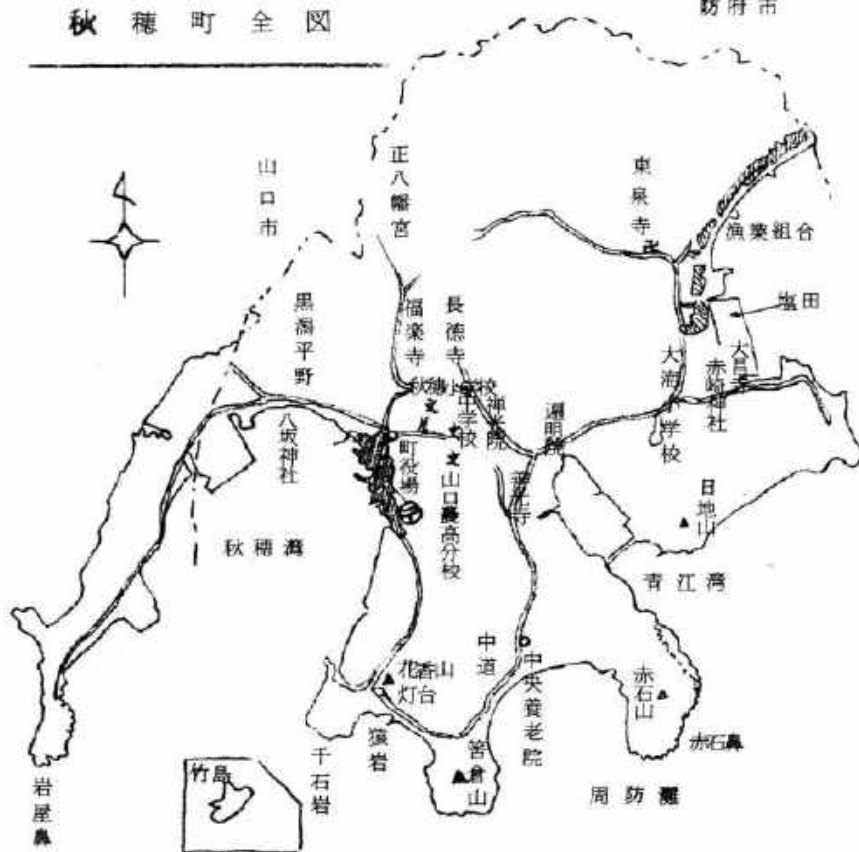
組合員個人によつて経営されている。組合の活動事業としては、信用、購買、燃油購売販売、および製氷冷凍、輸送、充電等の各事業が行なわれている。また設備として荷上設備、貯油タンク、自動車等がある。

なお、慣行としては、

毎年1月2日に灘祭りを行なうが、船主が親せき、乗組員を招待し盛大な酒宴をはり本年の豊漁を祈る行事である。

秋穂町全図

防府市



1:25000
0 1000 2000
m



I 市町村の概況 山口県吉敷郡秋穂町

1. 地 形

秋穂町は吉敷郡の東南端に位置し、東は大海湾を隔て防府市、西浦と相対し、南は周防灘に臨み、西は山口市秋穂二島に北は山口市秋穂二島及び防府市大道に接している。

地勢は半島状をしており海岸線の総延長26.6Km余に及んで、北境は亀尾山324.6mが聳え、南は経納山、小浜山、日地山をもち、他は串山連峯客倉山、花香山となつて、亜熱帯植物の繁茂している竹島に連なっている。

また、交通は鉄道沿線より孤立しているため交通はすべてバスにより行なわれている。山陽本線大造駅より25分、小郡駅より40分で海運は秋穂港より行なわれるが全部貨物である。

2. 人 口

年々人口は減少する傾向にある。このことは他の産業に就労するものが増加して来ているため、この傾向は漁家ばかりでなく、農家の若年層にも同じ現象がみられる。

また15才以上の就労者は、昭和37年10月現在総計4,586人、男2,793人、女1,793人である。

3. 産 業

農家6に対し漁家4の比率であるが一戸あたりの収益は漁家の方が多し。耕作地は地形のところへのべた通りである。この畑地で採れる甘藷は有名である。また、最近柑橘の栽培が盛んである。他に特産物として花崗岩の採石場26ヶ所、中小業者10事業場がある。

漁業では養殖事業として、車えび、たこ、ふぐ、あなど、のり等の養殖を推奨して漁家の安定を計ることや、県外出漁の促進、また道路網を整備拡充し、輸送の機械化等を配慮している。漁業従事子弟に対しては、漁業青年団を組織強化し漁撈法の技術革進に重点をおき、漁協が精神的、物質的に援助している。

4. 教育と文化

中学校生徒数931人で一学級当り41人であり、小学校2、中学校1、高校分校(農高)1である。地域ごとに青年団、婦人会等が組織され、料理編物、自動車運転講習を行ない、一般教養に役立てている。

II 漁業について

仕事の変遷

昔の漁法とあまり変わらないが、漁撈法の発達に伴い多角的な方法が行なわれるようになり、一本づりのみが、たこつぼその他養殖等まで行なうようになってきた。

また底びき船は帆をはつていたが、動力船になり網も機械となつている。

網子、船子の契約も現在はない。

1. 季節的繁閑及び主要魚種の水揚量

1月～3月が漁閑期、4月～6月・9月～11月までが最盛期で、平均年間就労日数は250日で、魚種はえびが最高の水揚で375,000Kg、ちぬ、かれい、すずき、このしろ、ぼらが227,000Kg、たこ、いか、なまこ、は150,000Kgとなつている。

2. 漁協加入者数

加入者は153名が正組合員、27名は漁業以外で生計をたてている人—準組合員で、30事業場就業者50名になつている。

2～3年前までは漁獲物の出荷がうまくゆかず、経営面にも赤字が出ていたが、現在その建なおしに努力し、運用の面においてもよくなつている現状である。

3. 漁獲物の捕獲方法

えび、は底びき網、ちぬ、かれい、すずき、このしろ、ぼら、は刺網、一本づり、小型定置釣延縄等による。また、たこ、いか、なまこについては小型定置、底びき網等が用いられる。

4. 漁獲物の処理、販売、出荷

処理は共同で行なわれ、その場で競売により販売され（えびは除く）、委託出荷が行なわれるが、一部分は組合独自でする場合もある。

5. 経営形態

組合員が主体で生産組合（共同生産）が一つあり、他は個人個人で経営している。所有動力船舶は10屯未満～5屯まで10隻、5屯未満100隻、3屯未満10隻は無動力船で、いずれも個人所有のものである。

6. 経理方法

毎年12月31日が決算期で、魚価の決定は、競売のものと、組合員独自が直接取引によつて決定するものがある。ただ、えびは、その都度話し合いで決定する。

経費内容は組合費600万円、人件費150万円その他は販売による諸経費である。また、漁業信用事業の現況は組合員からの預り金（5210現在漁協調査）16000千円、預金14463千円、信用事業の貸付金3874千円、貸入金5165千円となつている。

明治41年から昭和35年まで年々増加し約3倍に達している。

15才以上の就労者数を職業別にみると、漁業が40.9%、農林業28.9%、勤労労務者6.8%、製造業5.5%が主なところである。

3. 産 業

当村では水産業が主で、次ぎに工鉱業、畜産業、農業および林業となつている。

水産業の中でも、海藻類の採獲が全体の約6割である。鉱業も石炭及び金、銀、銅等が多く産出される。その他畜産業が盛んで、農作物も飼料作物が一番多く収穫され次に雑穀、蔬菜、ビート、馬鈴薯等が主産物である。

4. 教育と文化

中学校11校889名、教員数47名、1学級当り28名であり、小学校17校60学級、職員77人、生徒は合計2,126人である。(昭和35年4月)

Ⅱ 漁業について

浜中、散布の両漁協では漁家の指導的機能を果し、系統機関等の指導を受けながら内部事務体制の整備を図るとともに、集荷率の向上に努めている。

昭和初年度までにしん漁があつたが、現在は昆布が漁業の53%以上を占めている。昆布の採集は10m～15mの竿をいれて採られるもので、網子、船子の契約は今はない。現在中一生14才頃から自分の家の仕事を覚えさせるため夏休み期間中昆布のとり方、漁場の在り方、船の漕ぎ方等を父兄が教えている。

1. 季節的繁閑

漁期は7月中旬から8月末日まででその後は昆布の結び束ねの仕事をする。

2. 主要魚種別水揚量

主なもの次は次の表のとおりである。

第1表 漁業生産量(昭和35年中)

魚 種	数 量	魚 種	数 量
昆 布	3,353トン	生さけ	107トン
銀杏草	249	生ます	80
北寄貝	424	さんま	138
か に	142	た こ	108
にしん	148	くじら	8,110

資料出所 昭和35年中漁業生産高
(1961,村勢要覧)

またこれらの漁業に従事する漁協加入者は618人、昆布漁船数は動力船396隻、無動力船197隻、就労者は1,022名、内中学生は41名となつている。(37.8現在)

3. 漁獲物の種類および捕獲方法

下表のとおり 第2表

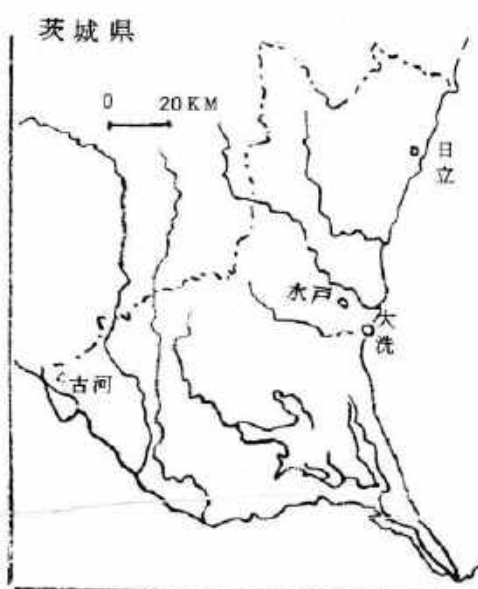
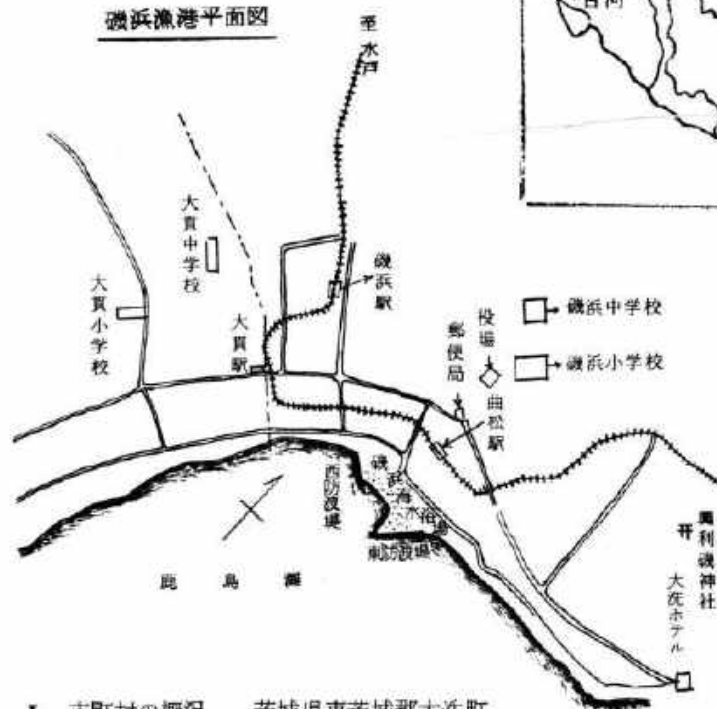
種 類	捕 獲 方 法
昆 布	磯舟で、棒の先の鉤、或はロープの先につけてある鉤、鎌などでまきこんでひきとる。
銀 杏 草	浅いところのものは手でつむ。 他は全上
北 寄 貝	磯舟、或は小型船（1 t～2 t）で桁網でとる。
か に	たらばがには刺網、毛がには籠網でとる。
に し ん	刺 網
さ け	4 月～7 月は沿岸なので流し網、秋鮭は定置網である。
ま す	流し網でとる
さんま	棒 受 網
た こ	延縄—空釣縄
くじら	近海捕鯨、100 t～200 tの船 鰲をうつ

4. 漁獲物の処理、販売、出荷

昆布は乾燥し関東、関西中国
中国地方に出荷する。

くじらは生肉、石けん、
薬品材料として大阪方面に
出荷する。

茨城県東茨城郡大洗町
磯浜漁港平面図



I 市町村の概況 茨城県東茨城郡大洗町

1. 地形

本町は水戸市より東方12Km、面積2,119Km²で茨城県の太平洋沿岸中央部に位置し、鹿島灘に面していて、水戸からバス、電車で30～40分のところにある。東西2.5Km、南北9.0Kmで北は那珂川を距てて那珂湊市に接し、北より南西にかけては潤沼川を繞らし常陸村、茨城町と相対し、南は鹿島郡旭村と境している。

2. 人口

磯浜地区、大洗地区の県道沿いに地元消費および近接農村を顧客として経営される商店1,249戸、大洗の名勝地をバックとして営まれる旅館、土産品販売等の観光関係業者約60戸等極めて多彩で複雑である。

人口は約22,290人(昭和35年度国勢調査)、4,785世帯を擁し、190戸が漁業に従事し、さらに水産加工業者104戸があり、15才以上の就業者数をみると10,287人が就労しそのうち漁業水産、養殖業に17.9%いるのがみられる。

3. 産 業

水田400ha、畑500ha あつて農業に就業しているものは22.6%みられ、また、卸売、小売業に就業しているものは19.0%、水産養殖業12%、製造業5%、サービス業13%となつているが、その他鹿島灘沿岸および沖合を中心として1屯前後の小型動力船300余隻と、いわしを主漁獲物とする7ヶ統の大型あぐり漁業また11ヶ統の中小型あぐり漁業と、これに乗り込み漁撈に従事する190戸、更にさんま、いわしの加工業者104戸と近接農村を顧客として経営される商店1,249戸とがあるが、漁、不漁の結果が町の経済を左右するので、やはり漁業の町であるということができよう。

4. 行 政

当町は都市的な色彩を帯び、人口密度は極めて高い。そして、住民の福祉のため「道路側溝の整備」「水道」その他の環境整備等、および総合中学校の建設、保育所等教育文化面に力を入れている。特記事項としては50余年にわたる港湾建設の念願がかない漁業根拠地として前途は極めて大きな期待がもたれている。また、漁協青年研究会を通じての漁撈技術の研究助長を図つている。

5. 教育および文化

中学校2校、小学校4校、公民館2、青年研修会館1がある。文化的活動としては青年学級婦人学級の開設、料理講習、敬老会、成人式、体育会、新生活運動等活潑な活動を行ない多くの成果を収めている。さらに漁業に従事する青少年には、体育、健全娯楽等を奨励して消費ぐせを是正、貯蓄心の培養に次第に実績をおさめつつある。

Ⅱ 漁業について

網子船子の船主との契約は特にないが、大洗の場合は大約次のようである。

(イ) (総水揚げ一経費) $\times \frac{1}{2}$ …… [船主及び雇用者]

(油・食料費・消耗品)

(ロ) (総水揚げ一経費) $\times \frac{1}{4 + \text{雇用者数}}$ …… A

A $\times 3$ …… 船主側で船体消却費に当てる

A $\times 1$ …… 船主の生活費

その他の雇用者で分配する。

1. 季節的繁閑

台風期の9月～10月および2月頃を除く期間は、殆んど年間を通じて操業を行なつている。

平均年間就労日数は約200日～210日である。

2. 主要魚種別年間水揚量（昭和35年）

沿岸魚

魚 種	数 量	金 額
た い	58,673kg	20,677,139円
ひ ら め	24,017#	9,056,985#
た こ	232,225#	38,250,540#
し ら す	876,026#	61,380,757#
す ず き	12,108#	3,674,754#
雑 魚	360,367#	34,941,263#
いわし・他	2,086,146#	68,485,142#
蛤	504,058#	9,161,667#
合 計	4,153,620#	245,628,251#

近海魚

魚 種	数 量	金 額
い わ し	437,6428kg	114,442,943円
かつお・まぐろ	252#	30,240#
ぶ り	192,727#	24,302,649#
あじ・さば	1,195,913#	19,833,973#
合 計	5,765,320#	158,609,805#

4. 漁獲物の種類およびその捕獲方法

○ 沿岸

- (1) た こ……………たこ樽流し
- (2) た い……………一本釣、延縄釣
- (3) ひ ら め……………一本釣、曳釣
- (4) し ら す……………しらす曳網漁業
- (5) い わ し……………小型まき網漁業
- (6) す ず き……………一本釣
- (7) はまぐり……………手操第3種機船底曳網

○ 近海

- いわし、ぶり……………指定中型まき網漁業（巾着網）

5. 漁獲物の処理、販売、出荷

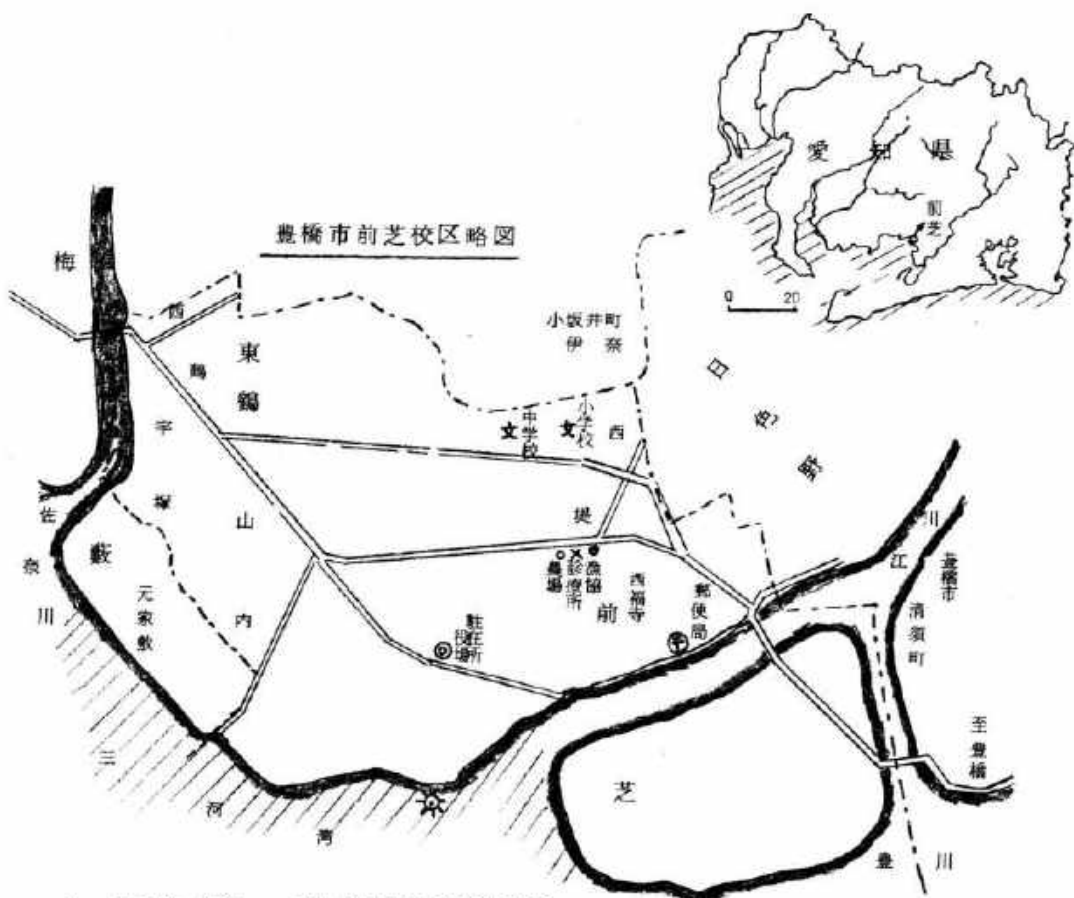
全面的に共同出荷を行ない、販売は組合が委託されて、せり売りを以て販売する。出荷については鮮魚出荷とし加工魚は組合にて行なう。また近海いわしは煮干、ほおざしとして全国に出荷、ぶりは鮮魚として関西方面へ出荷することになっている。

3. 漁協加入者数及び漁業関係

事業場数ならびに就業者数

大洗町漁業協同組合252名、磯浜漁業協同組合78名、漁船数250隻で（1トン以下96隻、1トン以上154隻）ある。

大型乗組員船主7名（1人5隻位）34隻、1ヶ統（網船2隻、運搬船2～3隻）を含める労務者平均60名位である。



I 市町村の概況 愛知県豊橋市前芝町前芝

1. 地 形

当町は豊橋平野の西端、豊川河口の右岸を占め、東海道本線豊橋駅から北西6軒、飯田線小坂井駅からは、西方3.5軒のところにある。

町の西は三河湾に面し、北西に豊橋市梅藪町を経て御津町に接し、北東は日色野町を経ては小坂井町に続いている。又南は豊川を距てて、本市吉前町に接している。

2. 人 口

当町の昭和36年の人口は2,225人、世帯数421戸で、15才以上の就労者は男653、女695、計1,348人である。

3. 産 業

農業は総耕地の約60%が水田であり、畑は大半は自家用野菜を栽培する程度で、耕作面積が少なく3アール以下が半数で、全農家が漁業を兼業としている。

次に水産業については、海苔漁業がある。この前芝海岸を中心とする三河海苔については、嘉永6年頃(1853)壺野基七という人が海苔養殖を開発したことは有名である。(同)次に白

魚漁業でこれは小笠原佐渡守の創業で毎年漁師たちは初魚2斗づつを領主に献上する習慣になっていた。しかし海苔養殖が盛んになり、業者の争いがあつたりして現在は昔程盛んでない。いあさり漁業は海苔漁業についだ町の収入源になつている。その他商工業も盛んであるが、地元の農漁業者が相手であるため、その規模も小さい。

4. 教育と文化

中学校生徒数282名、教員数11名、1学級当り児童数47名である。(昭和36年度現在)

社会教育の実情は次のとおりである。

- (1) 町内の一般成人を対象として成人学級が開設され、時事問題、経済、宗教、道徳などの一般教養をはじめ、生活改善、農業経営等地域社会の啓蒙が行なわれている。
- (2) また青年学級、婦人会、青年団、および海苔研究会等が中心になり、文化的な行事が行なわれている。

II 漁業について

昔より海苔そだの挿込みによつて天然養殖をしていたが、数年前より水平張り海苔の天然養殖を行なつてきた。しかし県外の種苗の導入により人工採苗によつて海苔網養殖に殆んど転換した。

1. 季節的繁閑

2月～10月は人工採苗の手入と管理をして竹の準備と海苔網の作成、漁業へのあみ張り等が行なわれる。10月～11月は漁場の網の手入期間、12月～4月は海苔採取期で平均年間就労日数は200日以上である。

2. 海苔年間水揚げ

毎年増加しているが昭和35年度では21,653,200Kg、金額にして160,233,680円である。

3. 漁協加入者および漁船数

昭和36年度の漁業協同組合の加入者は355名、西浜漁場および六条漁場あわせて漁船数は177隻、その他に無動力がみられ、その就業者数は556名にのぼっている。

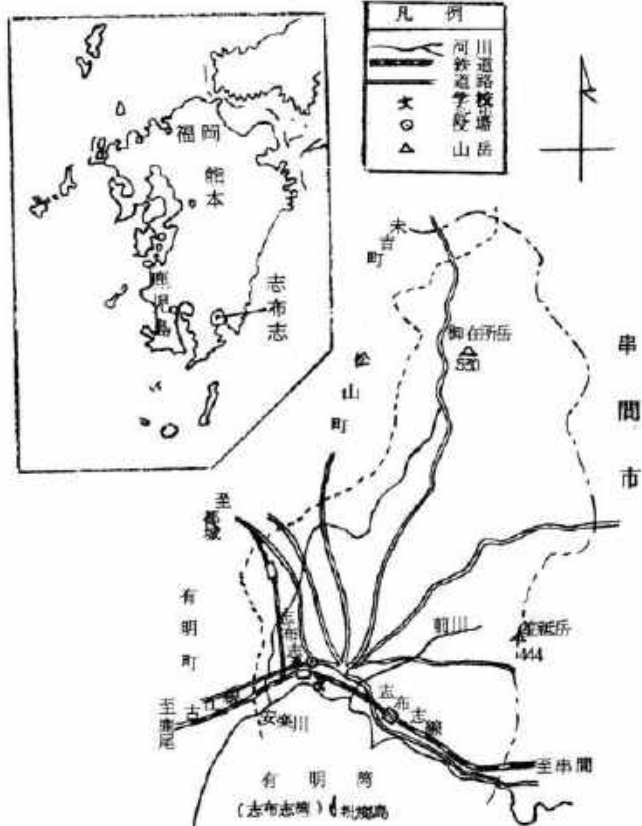
4. 漁獲物の処理、販売、出荷

漁獲物は共同集荷によつて共同入札を行ない出荷している。

5. 経営の形態および経理の方法

漁協の経営の主体は前芝漁業協同組合であるが組合所有数は2隻で、その経理の方法としては、漁業協同組合法によつて行ない、決算は毎年3月31日を以つて行なう。この組合は信用事業、購売、金融部は特に取扱わない。一部資材の購入については利益をほとんど見ないで組合員の便宜を計ることにつとめている。

志布志町全図



I 市町村の概況

鹿児島県嶺南郡志布志町

1. 地形

志布志は九州東南部大隅半島の東海岸に位し、東は宮崎県串間市に接し、西は杉山町有明町に、南は太平洋に、北は末吉町に東西8軒、南北32軒、北部は丘陵地帯で西南部に従つて平地を形成その間を安楽川、前川の河川が流れ志布志湾に注ぐ。

2. 人口

昭和36年の総人口は、28,575名、男13,831、女14,744で、男は二、三男の転出がめだつて多い。15才以上の就労者は農林水産養殖業に56.6%、製造、建設に10.7%、その他に32.7%である。

3. 産業

産業別世帯の割合は農業が全世帯数6,320（昭和36年現在）の50.2%、サラリーマンが24.0%であるが、水産業はわずか1.6%にすぎない。その他製造業、サービス、建設、小売業が15.1%その他となつている。

4. 教育と文化

中学校3、生徒数2,315人、教員数76、一学級当り平均生徒数は42人である。

社会教育としては、青少年育成、勤労青少年教育の振興をはかり、さらに成人教育を充実し、合理性と実践力のある町民育成を目標とし、そのなかでも漁業従事家庭の指導にはつねづね普導が行なわれている。

II 漁業について

年間就労日数160日、主要魚種別は主にあじ、さば、ふか、車えび、小えび、いか、かに等で、その他雑魚がこれに続いている。

1 主要魚種別年間水揚量

次に主要魚種別年間水揚量については次表のとおりである。

品 目	数 量	金 額
うるめ	2 1 0 2 4 K	9 2 2, 2 4 6 円
あじ	2 8 0, 2 8 6	1 0, 5 8 1, 8 9 5
さば	4 1, 0 4 6	1, 5 7 4, 2 7 9
ふか	1 0, 0 6 2	6 1 7, 9 7 7
たい	1, 6 4 1 0	2, 1 4 0, 3 4 4
いせえび	1, 6 7 9	9 1 1, 1 9 6
瀬魚	3 2, 0 4 1	4, 8 0 3, 5 2 8
車えび	4 1, 5 3 9	2 0, 0 1 5, 2 8 6
しらさえび	8 4 6	3 3 5, 8 6 9
小えび	2 7, 4 0 9	2, 8 3 7, 4 6 7
いか・たこ	2 3, 4 3 9	3, 3 5 1, 1 8 5
貝類	3, 1 8 9	5 1 0, 7 6 0
雑魚	6 3 5, 9 2 7	6, 3 8 5, 5 7 2
その他	1, 5 1 4	3 6 5, 9 3 7
計	1 1 2 6, 4 1 1	5 5, 3 5 3, 5 4 1

2. 漁協加入者数および漁船数と就業者数

(昭和37.4現在) 漁協加入者数140名、動力船57隻、無動力船16隻、就業者数203名である。

捕獲方法は八田網、棒受網、連網、一本釣、小、中型機船底びき網、地びき網、延縄等となつている。

漁獲物の処理等については地元業者へ競売入札することになつている。

昭和36年事業年度水揚実績表によると、2月はたいの水揚が一番目立ち、これについて1月には磯えびの水揚が多く、また、いか、たこの水揚も2、3月に目立っており、1、2、3月は比較的閑期とみられ、一方、7月から12月には、うるめ、あじ、さば、磯えび、くるまえび等いづれも最盛期をむかえ、繁期となつている。

また旧暦の3月16日には大漁祈願で賑う慣行がみられる。

3. 経営形態

経営形態については、組合1、漁家82、所有船数125隻を有し、網の種類7、統数99である。経理の方法については、決算期4月～3月、漁価決定法は入札、口札、経費内容は一般管理、事業管理費である。

Ⅲ 基礎調査の結果 (B)

基礎調査は、昭和36年3月または昭和37年3月に中学校を卒業し、調査地区に居住するものを対象として実施し、漁業に従事している年少者が、同期中学卒業者の中に占める位置付けのために行なつたものである。

1. 卒業者中在村者の状況

閉鎖型漁村の在村年少者の状況をみると、青森、岩手、滋賀では就職者が多く、それぞれ100%、86.5%、75.6%みられるが、長崎、広島、高知では就職者は38.2%、29.2%および20%と少なく、広島では29.2%となつている。従つて高知、広島の在村卒業者のうち進学しているものは80%、および70.8%みられる。つぎに中間型漁村では千葉、山口では進学者は71.7%および81.6%でやはり中卒の就職者の数は少ない。

第1表 職業別年少労働者数

県別	職業別	計	建設業		漁業		製造業		鉱業		水産養殖業		農業		林業		その他		不明	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
閉鎖型漁村	青森・小泊	32			61% 10								1				5	5		
	岩手・重茂	31			87% 3		1		1			1		2			1	2		4
	滋賀・沖ノ島	2			100% 1												1			
	広島・吉和	59	2		5% 3		5	10					1	2			10	26		
	高知・須崎	7			28% 2										2		3			
中間型漁村	長崎・上五島	26			26% 6		1						2	7			4	4		1
	北海道・松浦	15	1		調査 46% 7		せ		ず								1	1		5
	千葉・勝浦				調査 100% 6		せ		ず											
	福井・越前	6			100% 6															
近代型漁村	鳥取・網代	24	2		20% 4		1	1					2	2			8	2		
	山口・秋穂																			
	北海道・浜中	10			90% 3		1		ず								(兼業)			
	茨城・大洗				調査 3		せ													
近代型漁村	愛知・豊橋	23	1				4	3					1	1			9	4		
	鹿児島・志布志	49	2		24% 11		3	3					14	3			4	19		

さらに近代型漁村では北海道浜中村では就職者が22.5%みられるが、鹿児島では就職者は38%、愛知に53.5%みられ、一方進学者は北海道浜中村では75%、鹿児島に54.3%みられる。つぎに中卒在村者のうち就職しているものについて、その職業別(第2表参照)を見ると、閉鎖型漁村では、就職者の26.9%〜61.3%が漁業に就労しており広島では漁業就労はきわめて少なく5.1%にしかすぎない。さらに中間型漁村では山口20.8%、千葉46.5%、鳥取100%と地区によりその差は非常に大きく開いている。また、近代型漁村

では北海道浜中村に漁業就労の者が90%みられるが、その他鹿児島ではその割合はわずかに2.4%、豊橋市では37年春の中卒者のうち就労しているものゝ中に従業就労のものは1人もみられない。

2. 家族構成

閉鎖型漁村において、上にのべた年少者についてみると、家族人員7人の世帯が1.8~1.9%、(青森、岩手)5人の世帯が2.3%~2.6%みられ、また都市近郊型漁村においても北海道(8人世帯1.75%、9人世帯1.75%)を除くほか6人の世帯が比較的多くみられる。

第2表 家族構成人員別世帯数

	世帯人員 名	計	1人 2人 3人 4人 5人 6人 7人 8人 9人 10人 11人 12人 13人												
			1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	12人	13人
閉鎖型漁村	青森・小泊	37		1	2	4	5	5	7	5	3	3	1	1	
	岩手・重茂	40		1	3	2	6	7	7	7	5	1	1		
	滋賀・沖ノ島	2							1			1			
	広島・吉和	205		5	15	30	53	42	22	22	12	4			
	高知・須崎	35			3	8	8	6	5	3	2				
	長崎・上五島	68	1	4	3	5	10	15	13	4	6	2	4		1
中間型漁村	北海道・松前		調査せず												
	千葉・勝浦	43		1	3	8	7	8	8	5	1	1	1		
	福島・越前		調査せず												
	鳥取・網代	6				2		1	1	1			1		
近代型漁村	山口・秋穂	164		6	18	28	30	38	22	8	6	2			
	北海道・浜中	40			2	5	2	6	4	7	7	6	1		
	茨城・大洗		調査せず												
	愛知・豊橋	43				4	9	12	10	4	3		1		
近代型漁村	鹿児島・志布志	129	1	3	5	10	31	31	24	16	6	2			

さらに中間型漁村では世帯人員の特質はみられないが、千葉では6人世帯が1.8.6%、7人世帯が1.8.7%みられ、鳥取では4人世帯、山口では6人世帯が2.3.1%みられる。つぎに近代型漁村の北海道浜中村では、8~9人世帯のものが一番多く(1.7.5%)、ついで愛知県豊橋市では6人のものが目立ち(2.8.0%)、また鹿児島では5人~6人が多くみられ(2.4.0%)る。

また各漁村の家族形態をみると閉鎖型漁村では各地区ともに65%~75%が「夫婦と独立前の子女」の二世帯よりなる家族(以下A型という)が多くみられ、これについて「世帯主夫婦」、「子夫婦」および「独立前の未婚の孫」の直系三世帯よりなる家族が2.2%~2.6%までみられる。つぎに中間型漁村においては北海道松前町、および福島については明らかでないが、その他の地区ではやはりA型の家族が65%~100%みられる。さらに近代型

漁村でも中卒在村者の家族は、A型の家族型態が多くみられるが、その割合は41.9%（愛知）から63.4%（北海道浜中村）までみられる。

Ⅳ 担任教師および学校当局の所見 (C)

漁業就労の年少者の家庭状況および就学時における状況を学校調査により学校担任教師と学校当局の記入によつて把握したもので、その状況は次のとおりである。

1 父母の職業および学歴

閉鎖型漁村では高知(38%)、長崎(40%)をのぞくほか父兄、後見人で漁業に従事しているものは71%~91%と大部分を占めている。つぎに中間型漁村では父が漁業に従事しているものは70%~100%みられ、母のうち仕事をもっているものは福井に行商が30%みられる。さらに近代型漁村では愛知の50%を除くほか、茨城、北海道浜中村、鹿児島では79%~100%の父兄が漁業に従事しており、その他の仕事では行商がわずかに見られる。

つぎに父母の学歴について見ると、岩手、広島を除くほか父母は小学校卒業のものが一番多くみられるが、一方岩手では父親は高等小学校又は新制中学校卒業のものが一番多く、また広島では労働型態(家舟)との関係とも見られるが、小学校中退の父母が目立っている。つぎに中間型漁村では福井を除くほか、父母共に小学校卒業の学歴が比較的多くみられる。また北海道松前の長欠就労児の父母についても小学校卒業のものがみられる。また近代型漁村では愛知を除くほか小学校卒業の学歴の父母が60%以上を占め、愛知では高等小学校卒業又は新制中学校卒業のものが目立っている。

2 家庭の生活の程度と家庭の教育に関する態度

閉鎖型漁村の就労年少者の家庭生活の程度をみると、青森および広島では対象年少者の家庭生活の程度は村一般よりはよいことが知られるが、一方岩手では村一般が比較的裕福なのに比して就労年少者の家庭が普通より低いのが見られる。つぎに中間型漁村では北海道松前町の村一般より年少者家庭の生活がよい程度が高く、その他の県では村一般とは同様の生活程度であるのが見られる。さらに近代型漁村の茨城では村一般が「やや貧しい」のに対して就労年少者の家庭は「普通」とやや標準を上まわり、その他の地区は村一般とは同様な生活程度であるとのべている(2表参照)。

つぎに教育に関する両親の態度についてみると、閉鎖型漁村では「子供の学業」に関して、広島、高知では父母ともに「不熱心」なものが多く、青森、岩手、滋賀、長崎では「普通」と担任の答えた家庭が多くみられる。そして家庭教育の態度は広島、高知では「放任」と担任が答えた家庭が多いが、その他の各県では「普通」の家庭が多いのが見られる。

さらに家庭環境の特徴としては岩手では特にないという者が目立っているが、ついで目立つのは「漁があると学校を休ませる」といった家庭の子弟が多くみられると答えたものが多くみられる。中間型漁村においては子供の学業に関する態度としては、父母共に「普通」とであると学校調査において答えた担任が多くみられるが、山口では父母が子供の学業に関して「不熱心」

C-1表 家庭の生活程度別年少労働者数(学校調査結果より)

型別	生活程度		計	非常に裕福	比較的裕福	普通	やや貧しい	非常に貧しい	不明
	県別								
閉鎖型漁村	青森・小泊	村一般対象者家庭	35 35		7	1 20	34 6	2	
	岩手・重茂	村一般対象者家庭	47 47		47 13	24	9	1	
	滋賀・沖ノ島	村一般対象者家庭	11 11		1	11 9	1		
	広島・吉和	村一般対象者家庭	10 10		2 1	3 5	4 3	1 1	
	高知・須崎	村一般対象者家庭	9 9			2 2		6 4	1 1
	長崎・上五島	村一般対象者家庭	15 15		2	7 5	8 6	1	1
中間型漁村	北海道・松前	村一般対象者家庭	35 35			18	33 15		2 2
	千葉・勝浦	村一般対象者家庭	12 12		1	11 6	1 5		
	福井・越前	村一般対象者家庭	10 10	2	3	10 4	1		
	鳥取・網代	村一般対象者家庭	14 14		1	13 10	1 2	1	
	山口・秋穂	村一般対象者家庭	5 5			3 2	2 1	2	
都市近郊型漁村	北海道・浜中	村一般対象者家庭	30 30		4	2 10	28 14		2
	茨城・大洗	村一般対象者家庭	14 14			5 7	7 4		3
	愛知・前芝	村一般対象者家庭	4 4		1	4 2		1	
	鹿児島・志布志	村一般対象者家庭	4 4		1		3 2		2

であると担任が答えた父兄も少数ながらみられる。つぎに家庭教育に関しては中間型漁村の各地ではその態度が「普通」とであると答えている家庭が一番多く、また北海道松前町、鳥取、山口では「放任」とであると答えたものが多少ながら見られる。つぎにその他の家庭環境の特徴としては特に意見のないものが、一方鳥取、山口では父兄は進学を希望している家庭が多い。

つぎに近代型漁村についてみると、子供の学業について父母ともに普通に関心をもっているものは鹿児島以外の各地域にみられるが、鹿児島では一般に不熱心であると担任教師の答えた

のは北海道浜中村および愛知におづかに見られる程度である。さらに家庭教育に対する態度は北海道浜中村および茨城県に普通のものが見られるが、これについて「放任」している家庭も21%〜30%みられ、また非常に放任のものも北海道浜中村、および茨城にみられた。さらに家庭環境の特徴としては、「特にみられてない」ものが多いが、一方茨城を除くほか「家庭に教育の関心がうすい」といつたもの「父母が愛情に欠けている」ものが少数ながら見られる。(3、4表参照)

〇-2表 父母の学業に関する態度別年少労働者数

県名項目態度			計	長就 兄 数	熱心	普通	不熱心	不明	死亡
閉鎖型漁村	青森・小泊	父母見人	35	3	7	20	4	4	
		後見人	34	2	5	27	2		
			1		1				
	岩手・重茂	父母見人	41		4	33		4	
		後見人	44		5	36	3		
			4		1	2	1		
	滋賀・沖ノ島	父母見人	11		1	8	2		
		後見人	11		1	8	2		
	広島・吉和	父母見人	10			3	6	1	
		後見人	10			3	7		
	高知・須崎	父母見人	9				7	2	
		後見人	9			1	7	1	
中間型漁村	北海道・松前	父母見人	15		2	4	2	4	3
		後見人	15		1	6	3	4	1
			1				1		
	北陸道・前	父母見人	35			27	7	1	
		後見人	35		1	26	8	0	
	千葉・勝浦	父母見人	12			9	2	1	
		後見人	12			11	1		
	福井・越前	父母見人	9		1	7		1	
		後見人	9			4		5	
			1			1			
	鳥取・網代	父母見人	14			8	3	3	
		後見人	13			13			
			1				1		
漁村	山口・秋穂	父母見人	5			2	3		
		後見人	5			2	2	1	

都市近郊型漁村	北海道・浜中	父母見人	30 30	5 5	1 1	13 16	10 8		1
	茨城・大洗	父母見人	14 14			7 8	4 4	1 1	2 1
	愛知・前芝	父母見人	4 4		1	2 2	1		1 1
	鹿児島・志布志	父母見人	4 4				4 4		

ロ-5表 家庭教育の態度別年少労働者数

型 態	県 名	家庭教育の態度	計	a 非放任	b 放任	c 普通	d 熱心	e 非常に熱心	f 不明
閉鎖型漁村	青森	小泊	35		1	24	6	4	
	岩手	重茂	47		8	37	2		
	滋賀	沖ノ島	11		5	5	1		
	広島	吉和	10	2	5	3			
	高知	須崎	9	2	6				1
中間型漁村	長崎	上五島	15		1	7	2		5
	北海道	松前	35		6	28			1
	千葉	勝浦	12		3	6	1		2
	福島	越前	10			7	1		2
	鳥取	網代	14		5	9			
都市近郊型漁村	山口	秋穂	5	1	2	2			
	北海道	浜中	30	1	14	14	1		
	茨城	大洗	14	2	3	9			
	愛知	前芝		調	査	せ	ず		
	鹿児島	志布志	4		1				3

3. 年間欠席日数および欠課時間数

閉鎖型漁村の漁業就労の年少者のうち、年間50日以上欠席日数を示しているものは青森で11%、高知に67%、長崎に67%みられる。つぎに中間型漁村では福井を除くは年間50日以上欠席をしているものは各地にみられ、最高197日を数えたものも千葉においてみられている。さらに近代型漁村では年間50日以上欠席日数の者は愛知のほか各地にみられ、最も長いものでは252日といったほとんど一年間就労しているものも茨城にみられた。

4. 学業成績および健康状態

閉鎖型漁村においては、漁業就労者の学業成績は普通の者とやや劣っているものが多くみられるが、一方高知では学業の非常に劣っているものが目立ち、また在学中の漁業就労者は岩手では成

續は普通のものが目立ち、吉和では非常に劣っているものが目立っている。また就労年少者の健康は頑健と学校調査で答えているものが青森に目立ち、一方その他の各地域は健康、普通のものがほとんどとなつている。つぎに中間型漁村をみると、学業成績はやゝ劣っている者が比較的多く、また山口では非常に劣っている者が比較的多くみられる。さらに健康状態をみると普通および頑健なものが大部分となつている。さらに近代型漁村では学業成績が普通以下のものが多く、一方やゝすぐれていると担任教師が答えているのは極く少数にすぎない。また就労年少者の健康状態は普通および頑健なものが多く、一方やゝ弱いものは少々みられるにすぎない。

5. 年少者の漁業就労に対する学校当局および担任教師の意見

閉鎖的漁村における漁業就労に対する学校当局の意見を見ると、岩手、青森等では沿岸漁業の形体からして、17才前後の年齢では充分働けるので、適職と思われるとのべたものが目立ち、ついで家庭の事情、人手不足で手伝うのでいたし方ないと思う等の意見が見られる。

また漁業以外の事に関する教師の意見としては、広島については中位の成績で家庭に生活力があるにかゝらず両親の無理解によつて漁業に従事させられ、他の職業をえらぶことが出来なかつたことをあげており、また岩手では両親が教育の必要性、重要性を知りつゝも他の家との生活面、漁獲面の競争意識があつて年少者を稼働の犠牲にしているといった傾向があると担任が述べているのが目立つ。一方滋賀では在村の漁業就労者の中には「指導性もあるので将来島民の先頭に立つて島の開発に努める人物で将来が嘱望される」といった年少者もみられ、また「島民の生活をおだやかにリードする事の出来る人物だと思う」といった意見もみられる。

つぎに中間型漁村についてみると、北海道松前では本人も漁業労働を希望しており適当と思うと学校当局および教師の述べているのが目立ち、また千葉では「父親と共に船に乗り込んでいるため、漁業に従事することは本人に適當だと思う」といった意見が比較的多い。一方少数であるが「子供の頃から海に対するあこがれが強かつたが、重労働であるため、これに耐えられるかどうか疑問である」といった意見も出されている。また福井では「在学中より出漁の経験があり素質が充分ある」「心身ともに健康であるので漁業に適している」といった意見が多い。さらに鳥取では「海の男になるのだとの自覚もあり、また家人も望んでいるのでよいと思う」といったものが比較的多い。つぎに近代型漁村においては生徒の漁業就労について、茨城では「頑健でありさしつかえないと思う」といったものが多くみられ、また鹿児島では長欠の場合をみると、「父の病気のため」、「子供が多く貧しいこと」が理由で長欠就労しているのがみられるが一方別に本人が「就労しなければならぬ理由はないが親孝行から漁業就労するために義務教育を放棄している」ものがみられ、一方精神衛生、保健面では有害であると考えられる。

V 漁業に従事している年少者の労働の実態 (E 個人調査結果)

個人調査は漁業に従事している年少者を対象として個々に面接し、家族、職業、余暇の利用および感想等その他について調査した。これは、労働の実態ならびに年少者の意識を明らかにすることを目的としたものである。

1. 調査対象年少労働者数

閉鎖型漁村においては1地区8人～47人の年少労働者がみられ、岩手、広島、高知では長欠児が1人～14人みられ、また年令別では17才のものが1番多い。つぎに中間型漁村においては、長欠児の見られるのは北海道松前町に1人であるが、その他の地域には見られない。年少労働者は最も少ない山口の3人から北海道松前町の36人までみられるが、年令別には北海道松前町、千葉を除くほかは17才のものが多くみられる。さらに近代型漁村においては、北海道浜中村および鹿児島においては長欠就労児が少数ながらみられ、また年令別では17才ついで16才のものが目立っている。(C-1表参照)

C-1表 年令別年少労働者数

型 態	年 令	計	在学生徒 (長欠)	15才	16才	17才
閉鎖型 漁村	青森・小泊	35	0	9	7	19
	岩手・重茂	39	14	6	10	9
	滋賀・沖ノ島	11	0	2	3	6
	広島・吉和	10	5	0	2	3
	高知・須崎	8	0	1		7
	長崎・上五島	15	0	0	7	8
中間型 漁村	北海道・松前	36	2	28	6	0
	千葉・勝浦	12	0	9	1	2
	福井・越前	10	0	2	4	4
	鳥取・網代	15	0	3	5	7
都市近郊 村型	山口・秋穂	3	0	2	1	0
	北海道・浜中	30	2	3	12	13
	茨城・大洗	14	0	0	9	5
	愛知・前芝	4	0	0	1	3
	鹿児島・志布志	4	1	0	2	1

2. 住居の種類および職業の紹介者

漁業就労の年少労働者の住居の種類をみると、閉鎖型漁村、中間型漁村、都市近郊型漁村ともに自宅に居住しているものがほとんどで、例外的に長崎では寮に居住するものが3人、北海道(松前町)、千葉県(勝浦町)で知人の家に居住しているものがわづかながら見られる。

(E-2表参照)

E-2表

住居の種類別年少労働者数

住居の種類 型 県 名		計	住 居 の 種 類					
			自 宅	主人 の家	下 宿	寮	知人 の家	そ の 他
閉鎖型漁村	青森・小泊	35	34					1
	岩手・重茂	47	45					2
	滋賀・沖ノ島	11	11					
	広島・吉和	10	10					
	高知・須崎	9	9					
	長崎・上五島	15	11			3		1
中間型漁村	北海道・松前	35	33				1	1
	千葉・勝浦	12	10				2	
	福井・越前	10	10					
	鳥取・網代	14	14					
	山口・秋穂	4	4					
都市近郊型漁村	北海道・浜中	30	30					
	茨城・大洗	14	13					1
	愛知・前芝	4	4					
	鹿児島・志布志	4	4					

また、誰の世話で仕事をするようになったかを見ると、閉鎖型、中間型、都市近郊型漁村ともに就業に際しては「父母の進めによる」ものが一番多くみられるが、閉鎖型漁村の岩手県宮古市重茂では父母以外の「自分の意志で」、「何となく」、「家業をつぐため」等の理由で、「縁故」「学校」「父母」、安定所の紹介以外の「その他」によるものが目立ち、また長崎でも両親以外の「その他」のものの紹介によつたものが多くみられる。一方、中間型漁村、都市近郊型漁村ともに「父母」の進めにより就業したものがやはり一番多く、これについて「その他」がみられ、又中間型および都市近郊型の漁村では北海道松前町、福井県越前町、鳥取県網代町、および北海道浜中村、茨城県大洗町においては「縁故」による就業が少数ながらみられる。(D-1表参照)

D-1表

職業の紹介者別年少者数

型	紹介者	計	縁故	学校	安定所	その他	父母	自分から進んで	不明
閉鎖型漁村	青森・小泊	35				4	31		
	岩手・重茂	47				29	18		
	滋賀・沖ノ島	11				1	3		7
	広島・吉和	10	1			3	6		
	高知・須崎	9				2	6		1
	長崎・上五島	15	4			7	4		
中間型漁村	北海道・松前	35	1			3	21		10
	千葉・勝浦	12					12		
	福井・越前	10	2			4	4		
	鳥取・網代	14	2			5	7		
	山口・秋穂	4				1	3		
都市近郊型漁村	北海道・浜中	30	1	1		1	20	7	
	茨城・大洗	14	1			1	7	4	1
	愛知・前芝	4				1	2	1	
	鹿児島・志布志	4					4		

3. 家業、被雇用別の年少労働者数

閉鎖型漁村では各地ともに家業従事のものほとんどであるが、長崎上五島町では雇用されて就労しているものが多く93%にのぼっている。また中間型漁村においては北海道松前町、千葉県勝浦町、山口県秋穂町では家業従事のものほとんどを占めているが、一方福井県越前町、鳥取県網代町では雇用されて就労しているものが100%、および75%を占めている。さらに都市近郊型漁村においてはやはり家業従事のものほとんどであるが、北海道浜中町および鹿児島県志布志町では雇用就労のものが目立っている。

4. 経験年数および操業時の受持の仕事等

イ・経験年数別年少労働者数

閉鎖型漁村の漁業就労のものの経験年数は1年以上2年以内のものが一番多く、岩手では長いものが多く、4年のものが最も多く、5年がこれにつき、また高知では3年以内のものが最も多くなっており、一方長崎では経験年数は短かく、9カ月～12カ月以内のものが最も多くなっている。また中間型漁村では就業経験年数は2年以内のものが60～100%にのぼっているが一方3年以上のものは最高30%になつている。さらに北海道松前には経験年数4年以上のものが11%みられる。さらに都市近郊型漁村では2年以内のものが圧倒的に多くなっているが、一方北海道では3年以上最高10年の経験（小学校在学中より漁業に従事）のものもみられた。（E-3表参照）

E-3表

漁業経験年数別年少労働者数

型 別	県 名	経験年数	計	年 数 別							不明
				3ヵ月 以 内	3~ 6ヵ月 以 内	6~ 9ヵ月 以 内	9~ 12ヵ月 以 内	2ヵ年 以 内	3ヵ年 以 内	4~ 7年	
閉鎖型漁村	青森・小泊		35	4	7		4	16	4		
	岩手・重茂		47	1	4		3	5	5	27	2
	滋賀・沖ノ島		11	1			2	6	2		
	広島・吉和		10		3		2	5			
	高知・須崎		9				2		7		
	長崎・上五島		15	1	3	2	5	2	1	1	
中間型漁村	北海道・松前		35	4	6	2	2	9	6	4	2
	千葉・勝浦		12	8			1	2			1
	福井・越前		10			2		5	3		
	鳥取・網代		14	2	2	3	1	4	2		
	山口・秋穂		5		1	1	1		1		1
都市近郊型漁村	北海道・浜中		30	1	2	1	5	9	2	9	1
	茨城・大洗		14		2		5	7			
	愛知・前芝		4	2			1	1			
	鹿児島・志布志		4			1		2	1		

(2) 操業時の受持の仕事

漁業に就労している年少労働者が操業時にどのような仕事を受持つているかを見ると、地域の漁業就労の状況によつてこととなるが、閉鎖型漁村では大別すると網の操業をとりまくもの（網張り、網の引き上げ、船網の修理等）等と、一方機械の手入、発動機等の操作に関するものとがみられる。青森の小泊村では主としていか釣りに就労し、岩手の宮古市重茂では主として摺押しにまた広島の尾道市の吉和町では機械の操作にあたっている。また中間型漁村では北海道松前町でいかつり就労が目立ち、千葉勝浦町ではいか、とび、等に就労し、また福井の越前町では船の繋留、選別等にあたり、一方山口の秋穂町では船の機械掃除等にあたっている。さらに都市近郊型漁村ではやはり地域の漁業形態により北海道浜中村では選別茨城の大洗町では船とぎ又は漁撈に就労している。

(3) 通常行なっている雑用の種類と年少労働者

閉鎖型漁村では通常魚類の加工が目立ち、家事手伝、炊事、後始末等に従事しているものが見られ、一方船内の掃除、機械の整備、機械手入等がこれについている。（青森、広島、高知）

さらに中間型漁村ではやはり地域の漁撈形態によりこととなるが、いか加工（北海道松前町）網修理、魚類の選別、船修理等が目立っている。

一方都市近郊型漁村の年少労働者が通常行なっている雑用は、炊事、家事手伝、および船上の雑用一切などが目立っている。

5. 年間労働と仕事の場所および雇用関係

閉鎖型漁村では労働の種類は地域によりそれぞれにことなるが、青森では主としていか釣り、岩手ではこんぶ、あわび、うに、わかめ採り、滋賀ではます、ふな等、広島ではたい、えび、雑魚等を得ることが一番多くなっている。就労の場所は近海、沿岸、自家が多くみられ、また雇用関係は自家において就労しているものが多いが、長崎のみは雇用就労が多くみられる。一方中間型漁村では労働の種類の主なものはいかつり、(北海道松前町、千葉)底曳(福井、鳥取)が主なものとなつてゐる。場所は近海の就労が多く、自家の仕事に就労しているものが多くみられるが一方福井、鳥取では雇用就労が多くなつてゐる。

つぎに都市近郊型漁村では主な仕事として昆布採り、結束、撰別、(北海道浜中村)、魚釣り、のり、貝の採取、あみ引き等が目立っている。

6. 年少者の生活時間

(1) 生活時間

中間型漁村においては千葉、山口には労働時間が比較的短かく平均9時間および9時間48分であるが、北海道(松前町)では平均14時間42分、福井、鳥取ではそれぞれ平均13時間30分および13時間18分と長時間の労働となつてゐる。また睡眠・食事等の生理的再生産のための時間としては、山口が一番長くて14時間12分、ついで千葉が10時間48分—4表 労働時間に関する意見

型 別	県 名	意 見	計	労働時間に関する意見			
				長すぎる	普 通	短かすぎる	わからない
閉鎖型漁村	青森	森・小泊	35	22	13		
	岩手	手・重茂	47	22	20	2	3
	滋賀	賀・沖ノ島	11	1	9		
	広島	島・吉和	10	5	5		
	高知	知・須崎	9	3	5		1
中間型漁村	長崎	崎・上五島	15	2	9		4
	北海道	道・松前	34	19	13	1	2
	千葉	葉・勝浦	12	4	6		2
	福井	井・越前	10	8	1		1
	鳥取	取・網代	14	8	5	1	
都市近郊型漁村	山口	口・秋穂	4	1	2	1	
	北海道	道・浜中	30	13	14		3
	茨城	城・大洗	14		7		7
	愛知	知・前芝	4		2	1	1
近郊型漁村	鹿児島	児島・志布志	4		3		1

分で逆に労働時間の長い北海道（松前町）、福井、鳥取では、文化・教養のためにあてる時間はきわめて短かいのが目立つ。一方都市近郊型漁村においては、労働時間は9時間をこえているが最も長いものでも10時間37分となっており非常に長い労働時間はみられなかった。

(2) 労働時間および余暇時間等に関する意見

閉鎖型漁村において労働時間についての意見を聞くと青森、岩手では長すぎると答えているが、それ以外では普通であると答えており、実態と合せて、労働時間に対する意識のうすいことが知られる。

また中間型漁村においては長すぎると答えたものが多く、その理由として1回の出漁時間が長い、漁獲の多い時には夜中でも出勤せねばならぬ（福井）など、睡眠時間等を含めて4.5日ぶつ通しのはげしい労働である（鳥取）などの点をあげている。

一方都市近郊型漁村では労働時間について普通であると答えたものが多く、長すぎると答えたものは北海道（浜中村）で就労者の45%と比較的多くみられるのが目立っている。

さらに、余暇時間については、閉鎖型漁村では大体平均して「余暇」とをとつていると答えたものが多いが一方青森、広島では仲々とりにくい、と答えたものが多く、一方岩手の宮古では「とろろと思えばいくらでもとれる」といつたものは対象年少者の55%にのぼっている。

B-5表 余 暇 時 間 に 関 す る 意 見

型 態	県 名	計	余暇時間に関する意見			
			とろろと思えば いくらもとれる	仲々とりにくい	大体平均して とつている	全くとれない
閉鎖型 漁村	青森・小泊	35	2	17	14	2
	岩手・重茂	47	26	14	6	1
	滋賀・沖ノ島	11	2	5	9	
	広島・吉和	10	4	6		
	高知・須崎	9	1	1	6	1
	長崎・上五島	15	3	4	7	1
中間型 漁村	北海道・松前	32	5	5	6	16
	千葉・勝浦	12	9	2	1	
	福井・越前	19	9	1		9
	鳥取・網代	14	1	8	1	4
	山口・秋穂	4	3			1
都市近郊 村型	北海道・浜中	30	11	11	7	1
	茨城・大洗	14	3	9	2	
	愛知・前芝	4	2	2		
	鹿児島・志布志	4	4			

そして反対に「全くとれない」と答えたものも少数ながら青森、岩手、高知にみられる。

中間型漁村では「とろうと思えばいくらでもとれる」と答えたものは千葉、福井、山口にみられるが、一方「全く余暇がとれない」とのべたものも北海道（松前町）に50%みられ、また福井には47%みられる。また鳥取では「仲々とりにくい」と答えたものが目立っている。

さらに都市近郊型漁村では「仲々とりにくい」と答えたものが一番多いが、これとはほぼ同様に「いくらでも余暇時間はとれる」と答えたものも相当数にのぼっている。

7. 休 日 等

○休日日数

閉鎖型漁村においては、全然休日のないものも岩手、長崎にはそれぞれ3人みられたが、休日日数は地域によりことなっている。青森では休日が多く、月に10日のものが一番多く、又岩手では逆に少なくて月3日が一番目立っている。また滋賀、長崎では月5回のものが一番多くなっている。

また地方の祭の日は漁が休みとなる例が多くみられる。

中間型漁村ではやはり少数ながら休日の全然ないものが千葉のほか各地にみられる。また地方の祭りが休日になるものが多くみられ福井、鳥取では祝祭日も休日となるものが多くみられる。

さらに都市近郊型漁村では休日が全然ないと答えたものは北海道（浜中村）および愛知に少数みられるが一方その他の茨城・鹿児島では月に6日あるいは7日のものが見られる。地方の祭等は他の地区と同様に漁が休みとなるところが多く、北海道（浜中村）鹿児島では国の祝日も休日となっている。

8. 賃金の支給およびその使途

雇用就労の年少者に賃金の支給方法をきくと、閉鎖型漁村の青森では全員全額歩合給がみられるが、一方長崎では雇用者のうち全額固定給のものが一番多くみられ、また広島・高知では歩合給と固定給の形式が少数ながらみられる。

中間型漁村では全額歩合給が北海道（松前町）、福井および鳥取に一番多くみられ、一方全額固定給も少数ながら北海道（松前町）および福井にみられる。

さらに都市近郊型漁村では茨城に全額歩合給がみられるが、一方北海道（浜中村）・愛知では全額固定給が少数ながらみられる。（E-6表参照）

E-6表

賃金の支給方法（雇用者のみ）

型 態	項 目		計	項 目				無回答
	県 名			全額歩合給	歩合給と固定給	全額固定給	その他	
閉鎖型漁村	青森・小泊	4	4					
	岩手・重茂							
	滋賀・沖ノ島	2			1	1		
	広島・吉和	1			1			
中間型漁村	長崎・須崎	14	5	3	6			
	北海道・松前	12	7		2	3		
	千葉・勝浦	12						12
	福井・越前	10	4	1	1			4
都市近郊型	鳥取・網代	14	14					
	山口・秋穂	4	1					3
	北海道・浜中	7			2	3		2
	茨城・大洗	6	5	1				
漁村型	愛知・前芝	2			2			
	鹿児島・志布志							

つぎに賃金の支払についてみると、閉鎖型漁村のうち青森では毎出漁後に支払われるものが目立つが、広島では漁期終了後、その他が多く、また長崎では1カ月毎に支払われるものが78%みられる。一方中間型漁村では1カ月毎の賃金支払が一番多くみられ北海道、福井、鳥取、山口にみられる。さらに都市近郊型漁村の北海道浜中村では1カ月毎の賃金支払が多く、茨城では毎出漁後の支払が多くみられる。

9. 1カ月当りの小遣金額およびその使途

閉鎖型漁村の小遣額をみると岩手が最も少なく500円未満のものが49%をしめ、これについて1,000円未満が15%となつている。また青森、滋賀、長崎では1,000円～1,500円未満の小遣を使つているものが多くみられる。これらの小遣の使途としては、一番多いのはやはり映画に使う場合で、青森、岩手、広島に目立ち、ついで飲食に使うものが青森、長崎に多くみられる。またパーマメント、化粧品等は滋賀にみられ、また長崎に衣服費がみられる。

一方中間型漁村では1,000円以上の小遣を使うものが各県にみられまた2,000円以上では鳥取、山口に多くみられる。また千葉では500～600円と金額が目立つて少ない。またその使途としては映画が一番多く、ついで飲食に使うものが多く、鳥取ではパチンコに使うものが多くなつている。

さらに都市近郊型漁村としては、北海道（浜中村）では1,000円未満のものが一番多く、ついで2,000円未満がこれについている。1カ月の平均小遣金額は2,150円から最高2,500円程度となつてゐる。そしてその用途は他の地区と同様に映画につかわれることが多く、ついで飲食（北海道浜中村・茨城）・衣服（北海道浜中村）、化粧品購入がこれについている。

10. 寝室の広さおよび事業主や家族との同居・別居の別（雇用者のみ）

閉鎖型漁村では寝室の広さは1.1畳～1.6畳中間型漁村では0.8畳（鳥取）から2.9畳（福井）まで広くみられる。また都市近郊型漁村では1人平均2.4畳～3.0畳で1人当りは三つの型中一番ひろい。つぎに事業主の家族との同居別居別をみると、閉鎖型漁村では別室のものが全部であるが、中間型漁村においても山口の同室をのぞくほか別室のものが目立つ（北海道松前・福井・鳥取）。さらに都市近郊型漁村でも事業主や家族との別居がみられる。

11. 労働による災害・疾病

漁業の仕事をしていて病気になるつたり、けがをしたことがあるかという問については、閉鎖型漁村では青森、長崎の災害率が比較的高く、20%および33%みられ、中間型漁村および都市近郊型漁村では災害率は比較的低い。疾病としては一般の場合と同じく風邪、腰痛、胃痛、歯痛等がみられ、また災害としては漁業労働の特質から当然ながら、手の骨折、ひざの捻挫、打撲傷、切傷、凍傷、などが目立ち、特に閉鎖型漁村において災害が多くみられる。

（E-7表参照）

E-7表

労働による災害等（全員）

型 態	勞働災害等			計	項 目		
	県 名				有	無	無回答
閉鎖型漁村	青森 岩手 秋田 高知 長崎	森・小 手・重 賀・沖ノ 島・吉 島・和 高知・須 崎・上五	泊茂島	35	7	28	1
				47	4	43	
				11	2	8	
				10	1	9	
				9	1	8	
				15	5	10	
中間型漁村	北海道 千歳 福島 山形	松葉・勝 井・越 取・網 口・秋	前浦	32	3	26	3
				12		12	1
				10	1	8	
				14	4	10	
				4	1	3	
都市近郊型漁村	北海道 茨城 愛知 鹿児島	浜・大 前・志	中洗	30	2	26	
				14	3	11	
				4		4	
				4		4	

12. 仕事のつらさ

(1) 仕事のつらさ

現在の仕事を「非常につらい」と思っているものは、閉鎖型漁村では青森、岩手に多くみられるが、一方「どちらとも云えない」と答えたものが各地区とも最も多くなっている。また「まあ楽な方だ」といった意見も岩手にみられる。中間型漁村では相当つらいと答えたものは福井に多くみられるが、さらに北海道（松前町）、千葉、鳥取、山口ともに「どちらとも云えない」と答えたものが多く、42%～57%程度となつている。一方「非常につらい」と云うものも北海道、福井、鳥取に少数ながらみられる。

仕事のつらさについて都市近郊型漁村の年少者は、「どちらとも云えない」と答えたものがやはりその率が一番高く北海道浜中村53.3%、茨城に57.2%みられ、さらに「相当つらい」と答えたものも北海道浜中村に23.3%、茨城では28.6%みられ、なお「まあ楽な方だ」といった意見も少数ながら鹿児島を除く各県にみられる。（E-8表参照）

E-8表

現在 従事している仕事のつらさ

型 態	県 名	計	仕 事 の つ ら さ						無回答
			非常に つらい	相 当 つらい	どちら ともい えない	まあ楽 なほう だ	楽 だ	わからない	
閉鎖型 漁村	青 森・小 泊	35	11	4	11	3	3	3	
	岩 手・重 茂	47	8	5	15	15	3	1	
	滋 賀・沖ノ島	11		1	8		2		
	広 島・吉 和	10		2	4	1		3	
	高 知・須 崎	9		1	4	3			1
	長 崎・上五島	15		1	6	5	2	1	
中間型 漁村	北海道・松 前	35	2	6	17	2	4	1	3
	千 葉・勝 浦	12		3	5	2		2	
	福 井・越 前	10	2	7	1				
	鳥 取・網 代	14	3	1	8	2			
	山 口・秋 穂	4			2	1	1		
都市近郊 村型	北海道・浜 中	30		7	16	4	2	1	
	茨 城・大 洗	14		4	8	2			
	愛 知・前 芝	4			1	3			
	鹿児島・志布志	4		1	2				1

(2) 仕事を楽にする方法

閉鎖型漁村では、青森、岩手、滋賀、高知ともに仕事を楽にする方法については考えてもいないというものが一番多くみられた。またわからないという答えも多くみられる。一方横

極的に仕事を楽にする方法としては、「労働時間を短かくする」、「大きな船により漁をする」、「漁場が近ければよい」、「するめ加工の機械化をはかればよい」、「船置場を工夫する」、「大きな網を買ったらよい」、などが目立っている。

中間型漁村とは「わからない」といつた答えのものもみられるが一万仕事を楽にする方法としては、「機械化をはかる」、「労働時間を短縮する」、「共同によつて労働の近代化をはかる」等の意見が北海道（松前町）、千葉、福井等にみられる。また、「睡眠を十分とりたい」、「人数を増してほしい」等の切実な意見がみられる。さらに都市近郊型漁村においては、積極的な意見として、「労働の機械化などをする」、「よく話合つて仕事を分担する」、「時間をきめて交代する」等の改善策ものべられているが、一方「わからない」「方法はな-い」「楽に出来ない」（茨城）等があげられている。

13. 年少者の収入の家計における地位

「あなたの家ではあなたの稼ぎがなくても生活してゆけると思いますか」という問いで年少労働力の世帯内における必要性について聞いたが、閉鎖型漁村では年少者が漁業就労しなければ家のくらしは「やつて行けない」と答えたものはさすがに多く、青森、広島、高知で一番多くみられており、その生活の苦しさを示しているが、これについて「苦しいがやつて行ける」

E-9表

家のくらしと年少者の労働

型 別	項 目 県 名	計	家のくらしと年少者の労働					無回答
			楽にやつてゆける	苦しいがやつてゆける	やつてゆけない	全くやつてゆかない	わからない	
閉鎖型漁村	青森・小泊	35	7	12	13	1	2	
	岩手・重茂	47	19	15	3		10	
	滋賀・沖ノ島	11	2	5	3		1	
	広島・吉和	10	2	2	5	1		
	高知・須崎	9	1	3	4	1		
	長崎・上五島	15	4	6	3		2	
中間型漁村	北海道・松前	35	9	13	5	3	3	2
	千葉・勝浦	12	4	5	2		1	
	福井・越前	10	4	1	3	1		1
	鳥取・網代	14	4	8	2			
	山口・秋穂	4	1	2	1			
漁都市近郊村型	北海道・浜中	30	14	9	4	1		2
	茨城・大洗	14	4	4	2	2	2	
	愛知・前芝	4	2		2			
	鹿児島・志布志	4		3	1			

のは岩手にみられ、一方「全くやつて行けない」という答えをしたものは青森、広島、高知に一人当みられた。つぎに中間型漁村についてみると、「苦しいがやつてゆける」と答えたものが福井（楽にやつていける）をのぞくは一番多くみられ、一方「全くやつてゆけない」と述べたものも少数であるが北海道松前町、福井にみられる。さらに都市近郊型漁村では「楽にやつてゆける」と答えたものが一番多くみられ、年少労働力にたよる度合いが軽くなっているのがみられる。また「苦しいがやつてゆける」が北海道（浜中村）、茨城、鹿児島に多くみられる。（E-9表参照）

14. 長男の財産相続についての意識

長男が財産を1人でつづのが普通であるか否かについて聞くと、まず、閉鎖型漁村では、「長男が相続するより仕方がない」と答えたものは青森、滋賀に31%および55%みられるが、一方「良くない」と答えたものも青森、岩手、長崎にみられ、「良くない」と答えたものの解決策としては青森、岩手、長崎ともに「財産を平等にわけると答えたものが目立ち、さらに「長男に限らず誰か一人に継がせる」とのべたものも青森、岩手にみられる。

（E-10表参照）

E-10表

長男の財産相続について

型 態	県 名	長男の財産相続 について	計	項 目				
				そうする のが良い	そうする より仕方 がない	良くない	わからない	無回答
閉鎖型 漁村	青 森・小 泊		35	5	11	12	7	
	岩 手・重 茂		47	7	4	14	22	
	滋 賀・沖ノ島		11	2	6	2	1	
	広 島・吉 和		10		1	4	5	
	高 知・須 崎		9		3	2	4	
	長 崎・上五島		15			8	7	
中間型 漁村	北 海 道・松 前		35	5	8	2	18	2
	千 葉・勝 浦		12	2	3	1	6	
	福 井・越 前		10	1	6	2	1	
	鳥 取・網 代		14	1	1	10	2	
	山 口・秋 穂		4			1	3	
都市近郊 村型	北 海 道・浜 中		30	1	13	6	6	3
	茨 城・大 洗		14	2	3	2	6	1
	愛 知・前 芝		4	1	2	1		
	鹿 児 島・志 布 志		4			3		1

つぎに中間型漁村では長男の財産相続について、「そうするより仕方がない」と述べた地区が多く、一方鳥取では72%のものは長男のみの相続は「良くない」とのべているがその解決策としては「長男に限らず誰か1人に継がせる」といつた答えが一番多くなっている。さらに都市近郊型漁村では「長男が相続するより仕方がない」とするものが多くみられるが、茨城では「わからない」という答えが多く、また鹿児島では「良くない」という意見が多い。そしてその解決策としては「財産を平等に分ける」という答えが多くみられる。

つぎに次三男の将来については閉鎖型漁村をはじめ各漁村ともほぼ「他の職業につく」と答えたものが多くみられ、一方青森では「分家する」と答えたものが43%みられる。また中間型漁村では北海道（松前町）、鳥取、さらに都市近郊型漁村の各地区では「分家する」と答えたものがわづかながらみられている。

15. 健康および疲労の状況

E-11表

仕事による疲労

型 態	疲 勞		計				
				非常に 疲れる	少し疲 れる	疲れない	無回答
閉鎖型 漁村	青森・小泊		35	19	10	6	
	岩手・重茂		47	13	22	12	
	滋賀・沖ノ島		11	5	6		
	広島・吉和		10		7	3	
	高知・須崎		9	2	3	4	
	長崎・上五島		15	夏3 冬2	夏8 冬9	4	
中間型 漁村	北海道・松前		35	11	14	7	3
	千葉・勝浦		12	5	3	4	
	福井・越前		10	6	3	1	
	鳥取・網代			調 査 な し			
	山口・秋穂		4		2	2	
都市近郊 村型	北海道・浜中		30	10	11	8	1
	茨城・大洗		14		11	3	
	愛知・前芝		4		2	2	
	鹿児島・志布志		4		4		

労働の性格からも推測出来るとおり各地区ともに特殊なものが多いが、その他は普通で、やゝ弱いものは北海道に1人みられたにすぎない。また仕事による疲労は労働形態により異なるが、閉鎖型漁村では青森および滋賀に「非常に疲れる」と答えたものが69%および45%みられる。また「少し疲れる」と答えたものが多いのは岩手、広島、長崎で、その割合はそれぞれ47%、70%、60%となつてゐる。さらに中間型漁村では千葉および福井

で「非常に疲れる」と答えたものが目立ち、「少し疲れる」と答えたものは北海道（松前）、山口にみられる。さらに都市近郊型漁村では「少し疲れる」と答えたものが目立ち北海道浜中村では36.7%、茨城78.5%、愛知50%、鹿児島100%となつている。また「疲れない」と答えたものも愛知に50%、北海道浜中村では26.7%、茨城では21.4%みられる。

16. 余暇時間の過ごし方

(1) 出漁した日の余暇

閉鎖型漁村では出漁した日の年少者の余暇は「ラジオ・テレビ」で過ごすものが多く、また青森では余暇を「睡眠」に過ごすものが多くなつている。さらに岩手ではこれについて、「ただ何となく」、「読書」等が目立っている。つぎに中間型漁村では「ラジオ」、「テレビ」で過ごすものが各地区みられるが、一方「読書」と答えたものは北海道松前町、鳥取に23%および57%みられる。さらに都市近郊型漁村ではやはり出漁した日の余暇は「ラジオ」、「テレビ」で過ごすものが50%～75%みられるが、ついで北海道浜中村では「読書」に過ごすものが40%みられ、さらに茨城では「雑談」に過ごすものが35%と目立っている。

(2) 出漁しない日の余暇

閉鎖型、中間型、都市近郊型をとわず各地区ともに「休養」および「レクリエーション」に過ごすものが多くみられるが、一方「身の廻りの整理」にあたるものもみられ、さら「趣味、教養」に時間をあてている者も長崎、鳥取、山口、茨城、鹿児島をのぞく外各地に少数ながらみられ、岩手では「学校で学習する」と答えたものが目立っている。（日頃就労により中学校に出ることがどちらかというとおこたり勝の子供達である。）また学習に対する青少年の意欲の強いことは一般に知られているところであるが、この他青森、岩手では「定時制高校に通学している」ものも少数ながらみられる。つぎに中間型漁村でも出漁しない日は学校（定時制高校）に行くと答えたものが千葉にみられる。

17. 新聞の閲覧およびラジオ・テレビの聴視

(1) 新聞の閲覧状況

閉鎖型漁村では青森、広島、長崎では「新聞をとつていない」と答えたものが多くみられるが、一方岩手、滋賀、高知では新聞を取っているものの方が多くなつている。そして岩手では毎日目を通すものが21%と比較的多いが、そのほか広島をのぞくほかは青森、岩手、滋賀、高知、長崎ともに時々読む」ものが多くなつている。そして広島ではその就労が家舟といった特別の形態であることに起因すると思われるが、「全然よまない」と答えたものが一番多く60%を占めているのが知られる。なお、よむ内容としてはスポーツ欄がほとんどでこれについて滋賀では三面記事が第一位となつている。

つぎに中間型漁村では北海道（松前町）をのぞく外千葉、福井、鳥取とも新聞をとつ

ている」ものが多くみられるが、見る程度としては「時々読む」ものが北海道（松前町）、福井、鳥取にみられ、また千葉には「毎日目を通す」ものが目立っている。読む記事の内容としては閉鎖型漁村と同様に「スポーツ欄」をよむものが一番多くみられる。さらに都市近郊型漁村においては北海道（浜中村）に新聞を「とつていない」ものが56.7%みられ、その他の各県では「取っている」ものが57%～100%と過半数を占めている。そして「時々読む」とのべたものが北海道浜中村では40%、千葉には28.5%みられ、一方「全然よまない」と答えたものも北海道浜中村に20%、鹿児島に50%みられる。

さらに読む記事の内容では、北海道浜中村および愛知では「社会面」、千葉では「スポーツ」と答えたものが多い。

Ⅱ-12表 新聞の購読状況

型 態		項 目		計	とつてない	とつている	無回答
県 名							
閉鎖型漁村	青森	小泊	35	30	5		
	岩手	重茂	47	19	28		
	滋賀	沖ノ島	11	2	9		
	広島	吉和	10	8	2		
	高知	須崎	9	3	6		
	長崎	上五島	15	13	2		
中間型漁村	北海道	松前	35	25	8	2	
	千葉	勝浦	12		12		
	福井	越前	10	1	9		
	鳥取	網代	14	4	10		
	山口	秋穂	4	2	2		
漁都市近郊村型	北海道	浜中	30	17	13		
	茨城	大洗	14	5	8	1	
	愛知	前芝	4	1	3		
	鹿児島	志布志	4		4		

(2) ラジオの聴取状況

閉鎖型漁村においてはラジオがないと答えたものはいずれも半数をわり、滋賀、広島では40%、長崎34%、青森31%でその他の率はきつて低くなっている。さらにその聴取程度をみると、「毎日きく」と答えたものの割合が高く、青森では37%、岩手45%、滋賀36%が目立ち一方高知では「毎日すこし聞く」、長崎では「時折きく」が多くみられる。そして好きな番組としてはやはり新聞の場合と同様に「スポーツ」および「ニュース」、「天気予報」「放送劇」に人気が集中している。つぎに中間型漁村では各地区ともにラジオ

があると答えたものは64%～100%となっており、福井を除くほかは全国のラジオ受信率(89.6%)をわっている。つきにラジオを聞く程度についてみると、「時折きく」程度のものが福井、鳥取に、「毎日よくきく」が千葉、山口に、また「毎日すこしきく」ものが北海道松前町にみられ、好きな番組としてはスポーツと答えたものが千葉、福井、鳥取に多くみられ、また天気予報と答えたものが北海道松前町に一番多くなっている。

さらに都市近郊型漁村ではラジオがあると答えたものは茨城の50%、愛知の100%にまでわたっているが、愛知を除くほかはラジオの普及率は全国の89.6%、郡部の87.4%を大きく下まわっている。ついでラジオの聴取の程度をみると、時折きくと答えたものが目立ち、北海道および茨城にみられるが一方「毎日よくきく」と答えたものは愛知に多くみられる。さらに好きな番組としてはやはり歌謡曲及び北海道浜中村に目立っているが、一方茨城では特別選択していないといった答えが多く見られる。(E-13表参照)

E-13 ラジオの有無と聴取の状況

型 態	項 目 県 名	ラジオの有無				き く 程 度						
		計	な い	あ る	無 回 答	計	き 毎 日 よ く	し 毎 日 す こ	時 折 き く	き め か つ な い	き か な い	無 回 答
閉鎖型漁村	青森・小泊	35	11	24		35	13	8	6	3	5	
	岩手・重茂	47	3	44		47	21	11	10	3	2	
	慈賀・沖ノ島	11	3	7	1	11	4		2	2		3
	広島・古和	10	4	6		10	3	2		2	2	1
	高知・須崎	9		9		9	2	3	3	1		
	長崎・上五島	15	5	10		15	1	3	5	1	3	2
中間型漁村	北海道・松前	35	5	26	4	35	6	14	6		2	7
	千葉・勝浦	12	2	10		12	5	1	3	1	2	
	福井・越前	10		10		10	4		3	2	1	
	鳥取・網代	14	5	9		14	3	2	2		5	2
都市近郊型	山口・秋穂	4	1	3		4	2				2	
	北海道・浜中	30	4	23	3	30	6	6	8	2	4	4
	茨城・大洗	14	6	7	1	14	1	1	5	2		5
	愛知・前芝	4		4		4	3		1			
漁村型	鹿児島・志布志	4	1	3		4	1	1			1	1

(3) テレビの聴視状況

「テレビがない」と答えたものは広島50%のほか青森77%～高知90%がみられ、「時おりみる程度」と答えたものが多い。さらにみる番組としてはレスリング、野球、等のスポーツと答えたものが各地とも目立つて多く、閉鎖的な地区の特質として他に適当な娯楽

のない実情から歌謡曲、ドラマ等と共に非常によろこばれていることが知られる。テレビを見る場所としては「近所・友人の家」が多く、ついで「自宅」が広島にみられる。つぎに中間型漁村ではテレビが「ない」と答えたのは鳥取を除くほか山口の50%～千葉の83%でテレビの「ある」ものは各県ともにいずれも全国のテレビ普及率49.5%を下きわつている。またテレビを見る程度は、テレビ普及率の高い(89%)鳥取では「休日に見る程度」であるが、その他は閉鎖型漁村と同様に「時おり見る程度」が目立っている。さらにみる番組も閉鎖型漁村と同様に「スポーツ」と答えたものが一番多く、ついで歌謡曲となつており、また見る場所としては当然ながら普及率と関連をみせ、「近所・友人の家」が目立ち、ついで「自宅」が鳥取に多くみられる。さらに都市近郊型漁村ではテレビの普及はさすがに目ざましいものがあり、鹿児島をのぞく外は50%～75%といずれも全国の普及率(49.5%)を上まわり、総合的な意味で都市近郊型漁村が他の閉鎖又は中間型漁村と比較して漁業就労者の生活程度が多少上まわっていることを示すものといえよう。一方テレビ聴視の程度では「毎日よくみる」と答えたものは北海道(浜中村)、および愛知に多くみられ、「時おりみる程度」と答えたものは茨城にみられ、みる番組としては、ドラマが一番多く、ついで映画、茨城のスポーツ等が目立っている。またテレビをみる場所としては自宅をみる者が多い。(E-14表参照)

E-14表

テレビの有無および聴視状況

型 態	項 目 県 名	テレビの有無				聴 視 の 状 況							
		計	あ る	な い	無 回 答	計	み る 毎 日 よ く	し み る 毎 日 す こ	休 日 に み る 程 度	時 お り み る 程 度	み な な い に	無 回 答	
閉鎖型漁村	青森	35	8	27	1	35	3	3	11	16	2	8	
	岩手	47	10	37		47	11	2	2	14	10		
	滋賀	11	2	8		11	2	1		2	1		
	広島	10	5	5		10	1	2		3	3		
	高知	9	1	8		9	2	1		4	1		
中間型漁村	北海道	15	2	13	2	15	3	1	1	1	7	2	
	青森	35	7	28		35	1	4	1	14	7		
	千葉	12	2	10		12	2			5	5		
	福島	10	3	7		10	2	2	2	2	2		
	山梨	14	11	3		14	1		8	3	2		
都市近郊型漁村	北海道	4	2	2		4	1	1		2			
	北海道	30	18	12		30	15	3		6	5		
	茨城	14	7	7		14	3	3	1	5	2		
	愛知	4	3	1		4	3				1		
	鹿児島	4		4		4		3	1				

娯楽に関する問題

映画の観覧状況

閉鎖型漁村では月5、6回の映画観覧が多くみられるが、最高月20回のものもみられる。「たまにみる」と答えたものは滋賀に多く、また「ほとんどみない」と答えたものは各地にみられる。そして映画をみないものにその理由を聞くと、「親が早く寝るようにというので」「テレビを見るので」「暇がない」「映画は嫌いだ」等の答えが見られ、一方見たものの映画の内容としては「アクションもの」「なんでも」「恋愛もの」という答えが目立っている。

つぎに中間型漁村についてみると、映画を見る回数は地区によつて一定の傾向は見られない。北海道(松前)、福井は月当りの映画観覧回数が多い者が目立っている。映画を見ていない者についてその理由を聞くと、「見たくない」「暇がない」が目立ち、一方見ている映画の内容としては「時代劇」「何でも見る」「現代劇」を上げ、一方鳥取では「恋愛もの」が目立っている。

さらに、都市近郊型漁村では月2回の映画観覧が一番目立つが、漁村の性格から他に娯楽のもとめやすい都市近郊の漁村として当然の事であろう。映画を見ない理由としては、北海道松前で「映画館が遠い」「映画が好きでない」という答が見られ、一方見た者の映画の内容は「時代劇」のもの「アクションもの」「探偵もの」が多くみられる。

(2) 飲酒・喫煙

閉鎖型漁村の年少者の飲酒の状況を見ると、各地域にみられるが、その人数はきわめて少なく、また友達と一語に飲むものが多い。さらに喫煙するものはやはり非常に少なく、青森高知にわずかに見られる。

つぎに中間型漁村の飲酒についてみると、飲まないものがほとんどで、飲むものはきわめて少なく、友達と一緒に飲むもののみみられる。さらに喫煙については、喫うものがやはり比較的少なくなっている。さらに都市近郊型漁村の飲酒の状況を見ると、「飲まない」と答えたものが多く、愛知の100%をはじめとして、茨城では64.2%みられる。さらに喫煙については、飲酒と同様に「すわない」者が多く、愛知、鹿児島に100%、茨城に64.2%みられる。

(3) 県外旅行の経験の有無

閉鎖型漁村の年少者の旅行経験距離は比較的地域の近くで、就職・出稼・青年団体行事等の旅行目的のものがほとんどである。つぎに中間型漁村の年少者についてみると、北海道浜中村の東京旅行が一番多いのを除いては福井、鳥取、山口共に地域近隣に出かけるものが目立っている。また千葉県の日光方面への観光が目立っている。旅行目的としては修学旅行で出かけたものが多く、ついで就職、出稼、青年団のレクリエーション等が目立っている。

さらに都市近郊型漁村では、旅行先としては地域の近郊が多くみられ、やはり旅行は修学旅行で行った場合が目立ち、50%～79%みられる。

(4) 読書およびパチンコ

年少者の読書の状況をみると、閉鎖型漁村では滋賀の読んでいない者45%をのぞくほか、書物の内容としては週刊誌と答えたものは青森に74%、長崎に67%みられ、一方漫画雑誌という答えは岩手(68%)、広島(40%)、高知(67%)に目立っている。つぎに中間型漁村の読書についてみると、読んでいないと答えたものは千葉に33%みられるほか、各地とも全員が読んでいると答え、閉鎖型漁村にくらべて読んでいないものは目立つて少ない。その種類としては閉鎖型漁村と同様に週刊誌、漫画雑誌が目立ち、それぞれ35%～80%および10%～50%みられる。さらに都市近郊型漁村では娯楽雑誌、週刊誌、漫画雑誌の各種がみられ、また北海道浜中村、茨城、愛知では趣味、教養に関する本、また北海道では月刊雑誌等がみられる。

つぎにパチンコは閉鎖型漁村では「やらない」と答えたものが多く、高知の56%～岩手の94%までみられ、また中間型漁村ではやはりパチンコを「やらない」と答えたものは鳥取を除くほか福井の50%、千葉、山口の100%と答えている。なお、鳥取では「たまにやる」と答えた者が多く43%にのぼるのが特異である。さらに都市近郊型漁村ではやはりパチンコを「やらない」と答えたものは茨城の42.8%から北海道浜中村の86.9%まで見られる。目立つた地域としては茨城県、大洗では「たまにやる」ものが36%みられる。

(5) サークル・クラブ・グループ等への参加

サークル等への参加は広島、高知、長崎に少なく、一方青森、岩手、滋賀ではそれぞれ26%、42%、91%と比較的参加しているものが多くみられる。さらに閉鎖型漁村では活動に参加することについて両親や事業主は「何も云わない」という答えが多く、サークル等に参加している者のうち、青森では89%、岩手では96%、滋賀では90%がグループ等に参加することについて「何も云わない」と答えている。つぎに中間型漁村では最低北海道の20%から最高福井の100%まで各地ともにグループに参加しているものの割合はほぼ閉鎖型漁村と同様である。さらに両親又は事業主のグループ活動参加に対する意見としては福井、山口では「参加することを奨励している」とのべたものが50%および100%となつていますが、一方北海道松前、福井、鳥取では「何も云わない」と答えたものがそれぞれ23%、50%、72%みられる。さらに都市近郊型漁村のグループ活動の状況は、やはり参加している者の数は少なく、北海道浜中村および茨城にみられ、愛知、鹿児島には見られなかつた。

19. 将来についての希望

閉鎖型漁村の年少者に将来の希望を聞くと、青森、岩手、広島では「漁業をつづける」と答えたものが多くみられるが、一方滋賀、高知では「他の産業に変わりたい」という答えが見られる。また中間型漁村では北海道松前および山口県では「漁業をつづける」と答え、一方福井、鳥取では他の産業に変わりたいと答えるものが一番目立っている。さらに都市近郊型漁村の北海道浜中村、茨城、鹿児島ではやはり「漁業をつづける」と答えたものは37%、57%および50%となつている。また茨城では「漁業をやらねば仕方がない」と答えた者も35.7%みられ、さらに「他の産業に変わりたい」と答えたものは北海道浜中村、鹿児島に50%および50%みられる。

20. 今一番困っていることおよび悩み

閉鎖型漁村ではいろいろの悩みが具体的にのべられているが、青森では政府に対する要求として「道路を広くしてほしい」、「築港の完全なものがほしい」が目立ち、岩手ではほとんど意見はみられない。また高知では目立つて意見はないが「底びき網の出来るようにしてもらいたい」「自分の船で漁が出来るようにしてもらいたい」「港の設備をよくしてほしい」等があり、広島では「海域の制限を除き、何処にでも出漁できるようにして欲しい」、長崎では「港を整備して大型船の出入の出来るようにし、もつと漁業を盛んにしたい」などが見られる。また中間型漁村の鳥取では、「船員保険に全員が入れるようにしてほしい」福井では「休漁時の職業を考えてほしい」という希望が目立っている。一方北海道松前町では「技術関係の講習会を開きたい」「汽車を開通させてほしい」「船入間を広げたい」等の熱心で切実な意見が目立っている。さらに都市近郊型漁村では特に目立つた希望は見られないが、要求としては「水産資源の保護、増殖について施策を」「道路をよくしてほしい」「零細漁村に対してもう少し思いやりのある援助をしてほしい」等の答えが北海道にみられ、一方「組合を作つて月給制としたい」「工員になるような学校がほしい」等の具体的な要求も見られる。

Ⅵ 世帯及び家族調査の結果

漁業就労の年少者のいる世帯についてその家族の状況をみると次にかかげるとおりである。

1. 世帯員数

漁業に従事している年少者の世帯の世帯人員についてみると、閉鎖型漁村では世帯人員6人～8人の世帯が一番多く、岩手は中でも世帯員数の多い7人世帯が一番多くみられ、8人、9人、10人等の世帯が目立っている。

図-1表 地域別年少者の世帯人員（B、個人調査の結果より）

世帯人員		計	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
閉鎖型漁村	青森・小泊	35	2	2	4	7	4	6	2	3	4				1				
	岩手・重茂	47		1	3	8	12	9	4	5	3	2							
	滋賀・沖ノ島	11		1	1	4	3	1	1										
	広島・吉和	10				4	2	3	1										
	高知・須崎	9	1		2	4	1		1										
中間型漁村	長崎・上五島	15	1	1	2		2	1	3	3	1		1						
	北海道・松前	35	1	1	6	2	7	5	6	4	1	2							
	千葉・勝浦	12			2	1	6	2	1										
	福井・越前	10		1	2	1	1		4	1									
	鳥取・網代	14		2	1	5	1	3	1		1								
都市近郊型漁村	山口・秋穂	4		3	1														
	北海道・浜中	30		1	1	4	1	13	5	3	1							1	
	茨城・大洗	14	1	2	3	2	3		2				1						
	愛知・前芝	4			1	1	1	1											
	鹿児島・志布志	4				1	2		1										

さらに中間型漁村についてみると、北海道・松前および千葉では世帯人員7人の世帯が一番多く、福井では世帯人員9人の世帯が多くみられ、一方鳥取では6人の世帯が多い。

また秋穂は世帯人員が比較的少なく、4人の世帯が多いのが目立つ程度である。

また、都市近郊型漁村についてみると、世帯人員は北海道では8人の世帯が一番多く、その他の県でも世帯人員5～7人の世帯が多くみられる。

2. 家族の類型

閉鎖型漁村では夫婦又は夫婦と独立前の子女の家族世帯という近代型世帯は各地区とも一番多くみられ、47%～66%みられている。これについて「近代型十親」のケースが9%～40%みられ、さらに「近代型十親十兄弟」も又岩手、滋賀、長崎にみられる。つぎに中間型漁村では夫婦または夫婦と子女の世帯がやはり多く福井を除くほか各地とも58%～71%、山口の100%が目立ち、一方「近代型十親」の世帯がこれにつき、北海道松前町25%、千葉

3.3%がみられる。

さらに都市近郊型漁村では近代型の家族が一番多く、愛知を除くほか57.2%~75%程度みられ一方「近代型+親+兄弟」といった複雑な家族類型のものは少なくなっている。

3. 世帯の収入源

閉鎖型漁村では高知、長崎を除くほか各地ともに漁業就労とくに自営により（本人の）収入をはかっているものが80~96%みられ、高知では共同で漁業に就労しているものが75%、また長崎では雇用されて漁業に就労しているものは93%とほとんどをしめている。さらに中間型漁村の収入源をみると、閉鎖型漁村と同様自営による漁業就労のものが北海道松前町、千葉、山口に60~100%みられ、一方福井、鳥取では雇用就労のものが60%~79%となつている。さらに都市近郊型漁村では、他の地域と同様に自営の漁業就労のものが最も多く、64~100%となっており、雇用漁業就労の世帯はさわめて少ない。

D-1表 世帯の収入源（本人）

型 態	県 名	収入源		世帯数	漁 業 就 労			
					自 営	共 同	雇 用	
							親 族	そ の 他
閉鎖型漁村	青森	森泊	実数 %	35 100	32 91	3		
	岩手	手茂	実数 %	49 100	47 96			2
	滋賀	賀島	実数 %	11 100	10 91	1		
	広島	島和	実数 %	10 100	8 80		1	1
	※高須	知崎	実数 %	8 100	2	6 75	1	
	長崎	五島	実数 %	15 100	1			14 93
中間型漁村	北海	道前	実数 %	35 100	30 86	1		4
	※千勝	葉浦	実数 %	12 100	12 100		1	2
	福越	井前	実数 %	10 100	4 40		3	3
	鳥網	取代	実数 %	14 100	1	1	1	11 79
	山秋	口穂	実数 %	5 100	3 60		1	1
都市近郊型漁村	北海	道中	実数 %	30 100	26 83.3			5
	茨大	城洗	実数 %	14 100	9 64.3			5 35.7
	愛前	知芝	実数 %	4 100	4 100			
	鹿児	布島	実数 %		調	査	せ	ず

○ 高知、千葉の場合は、常時は自営漁業に就漁するが、臨時的には雇用就労することがある。

○ 雇用の欄の「親族」とは、親族により雇用されて就労する場合をさす。

4. 世帯員の出稼の状況

閉鎖型漁村の他出世帯員は、各県とも見られるが、男女別では男子の方が多い。

また他出家族の続柄は二、三男が他出している場合が各地にみられ、これについて長女、ついで長男の順になっている。また中間型漁村ではやはり各地区ともに他出のものが見られるが、その家族の続柄は北海道松前町では息子、とくに長男が多くみられ、これについて二、三男が目立ち、また千葉では世帯主が他出しているケースも見られるが、一方福井、鳥取、山口では二、三男の他出が目立っている。さらに都市近郊型漁村でも他出家族は多少ながら見られたが、やはり北海道浜中村、茨城に多くみられ、他出家族の続柄としては二、三男および、二、三女が多くみられる。

5. 他出家族数と年齢

閉鎖型漁村については1世帯1人の場合が多くみられるがその年齢別をみると、各地域ともに20才以上のものが多くみられる。つぎに中間型漁村ではやはり1世帯1人の他出が目立つが、一方北海道松前町では他の地域とはことなり、5人他出の世帯6人他出の世帯が目立っている。また他出者の年齢をみると、北海道では20才が一番目立ち、福井では21～25才、鳥取では25～30才が一番多くみられる。さらに都市近郊型漁村をみると、やはり1人～3人の他出のものが各地域にみられ、北海道では道外への他出者は少ないが、茨城、鹿児島では他出家族は県外に出るものが多く、就職による他出が多くなっており、出稼ぎといったものは少なくなっている。他出者の年齢はやはり20才および21～25才のものが少なくない。

6. 漁業従業世帯の基幹労働力

閉鎖型漁村においては、世帯主が基幹労働力となつている世帯が漁業従事世帯に多くみられるが年齢別では40才台～50才台のものが多くみられ、ついで長男が基幹労働力となつているものが目立っている。長崎では長男の基幹労働力の場合が多い。これら長男の場合には10才台又は20才台のものが多くみられる。つぎに中間型漁村についてみると、鳥取を除くほか世帯主が主として基幹労働力となつているが、一方鳥取では長男が基幹労働力となつているのが目立っている。さらにこれ等の人々の年齢は世帯主では40才台および50才台が多くみられる。さらに都市近郊型漁村では愛知のほか世帯主が基幹労働力となつているものが多く、その年齢は40才台から60才台が多くみられるが、一方愛知では長男が基幹労働力となつている場合がみられる。

7. 所有網および家のくらし

D-2表 基幹労働力（性別、年齢別、世帯内の地位別）

型 態	県 名	性別・年齢別 地 位		性 別		年 令 別								
				男	女	10 台	20 台	30 台	40 台	50 台	60 台	70 台	不明	
閉 鎖 型 漁 村	青森	森泊	世帯主 長男	22 13		2	6	2 3	9 1	9 1	2			
		岩手	世帯主 長男	39 10			2 4	2 5	16	17 1	2			
		滋賀	世帯主 長男	7 4					3	4			4	
		広島	世帯主 長男	8 2		1	1	1	6	1				
		高須	世帯主 長男	4 4		3		1 1	2	1				
		長上	世帯主 長男	6 8 1		4	4		5		1		1	
中 間 型 漁 村	北海道	北松	世帯主 長男	13 5	14 3	3	2	3	19	6			2	
		千勝	世帯主 長男	12				2	10					
		福越	世帯主 長男	5 5		1	1	3	2	3				
		島網	世帯主 長男	14		2	1	2	4	5				
		山秋	世帯主 長男	4 1		1			3		1			
都 市 近 郊 型 漁 村	北海道	北浜	世帯主 長男 長女	22 3 2	1								22 3 2 1	
		茨城	世帯主 長男 長男 三不	5 2 1 1 5		1 1	1 1		2	2	1		5	
		愛前	世帯主 長男 世帯主の妻	1 2 1		1					1		1	
		鹿島	世帯主 長男	3 1			1		2		1			

閉鎖型漁村では次のような網が所有されている。即ち青森では定置網、棒受網、岩手では小型刺網、滋賀では底びき網、小糸網、広島は小型底びき網、高知の船びき網等が目立っており、家のくらしは長崎をのぞく各地域ともに自家漁業に従事しているものが一番多くみられ岩手ではこれについてその他の自家家業、また漁業に雇用される場合がこれにつき、一方長崎では漁業に雇用される場合が一番目立ち、ついで自家漁業によるものが多くみられる。つぎに中間型漁村の北海道松前町では釣のべ網、流しあみ、千葉では刺網、山口ではその種別はひらき底びき、まき網、小型定置網等がみられる。また家のくらしは何によるかを見ると、鳥取を除くほかは自家漁業に従事しているものが一番多くみられるが、一方鳥取では漁業に雇用される場合が目立っている。さらに都市近郊型漁村の北海道浜中村では刺網、にしん網、茨城のしらす網、愛知の網ひび、鹿児島底びき網が多く見られる。そして家のくらしは自家漁業によるものが多く、愛知、鹿児島では100%、北海道浜中村、茨城では73.4%および56.2%みられ、これについて漁業やとわれが見られる。(D-3・4表参照)

8. 年間収入額別世帯数

閉鎖型漁村について年間の収入(漁業以外による収入を含む。)をみると各地域によつてその金額はことなり、高知が一番低く10万円未満であるのに対し、青森では20～30万円未満、D-3表 家のくらしは何によつているか

型 態	県 名	自 営 産 業					やとわれ		
		計	自 営 漁 業	共 同 漁 業	自 営 家 業	そ の 他 自 営	漁業に 雇 用	そ の 他 に 雇 用	そ の 他
閉鎖型 漁村	青 森・小 泊			記	入	な	し		
	岩 手・重 茂	49	49	4	43	1	15	2	
	滋 賀・沖ノ島	11	10	6	1				1
	広 島・吉 和	10	9		1		(2)	(2)	
	高 知・須 崎	8	2	6		1		5	
中間型 漁村	長 崎・上五島	15	12			1	13	2	
	北海道・松 前	44	33				5	6	
	千 葉・勝 浦	14	11				3		
	福 井・越 前	10	4				3		3
	鳥 取・網 代	18	2				12	4	
都市近郊型 漁村	山 口・秋 穂	7	5				2		
	北海道・浜 中	30	22			1	2	5	
	茨 城・大 洗	16	9				7		
	愛 知・前 芝	4	4		3			3	
	鹿児島・志布志	4	4						

()内は雇主の数をあらわしている。

D-4表 所有船隻数別船数

型 別	県 名	隻 数	電 数	小 型 船 階 層						
				20～ 10トン	10トン 未満 5トン	5トン 未満 1トン	1トン 未満	無動力 5～ 1トン	不 明	な し
閉鎖型漁村	青森・小泊	30		12		13		5		
	岩手・重茂	58				58				
	滋賀・沖ノ島	15				15				
	広島・吉和	10			1	8			1	
	高知・須崎	14				7	7			
	長崎・上五島				記 入	な し				
中間型漁村	北海道・松前	14		2		9	3			
	千葉・勝浦	12		10			2			
	福井・越前	10			10					
	鳥取・網代				記 入	な し				
都市近郊型漁村	山口・秋穂	4				4				
	北海道・浜中	34			1	18		15		
	茨城・大洗	16		1				10	5	
	愛知・前芝	4								4
	鹿児島・志布志	4				4				

岩手では30～40万円未満、滋賀の40～50万円未満、広島では50～60万円未満がみられる。つぎに中間型漁村をみると、北海道松前町では年間50～100万円の世帯が多くみられ、また福井では200～300万円のものも多くみられる。一方山口では漁獲金額は年間10～30万円未満の少額のものも多くみられる。さらに都市近郊型漁村では鹿児島を除くほか50～100万円の世帯が各地域とも一番多く、さらに鹿児島では10～30万円未満の低額のものも多くみられる。

2. 土地の所有状況および住居の状況

調査世帯の耕作地面積をみると、田を所有していないものが一番目立っているが、滋賀では他の地域とことなり、1～3反以下が一番多くみられ、また畑では滋賀、広島、高知でも畑のないものが多く、一方青森では1反以下の畑を持つものが一番多く、長崎では1～3反以下、また岩手では3反以上の畑を持つものが目立っている。さらに山林についてみると、岩手を除くほか山林を持つていないものが多くみられるが、一方岩手では1町以上の山林を所有しているものは一番多くみられる。さらに住宅の状況をみると、閉鎖型漁村では10～20坪以下の家が青森、滋賀、長崎に見られるが一方岩手では30坪以上の大きな家が多く、また高知では10坪以下の家が多くみられる。住居は自家が多くみられ、水源としては専用の井戸を有しているものが多くみられるが、風呂は無い家が多く、岩手には共同の風呂をもつていと答えたものが少数ながらみ

られたが、一方、岩手は他の地域とことなり、風呂のあるものがほとんどである。

つぎに中間型漁村をみると田を所有しているものはわづかに北海道に数世帯みられるが、その他の地域ではないと答えているものが一番多く、つぎに畑についても千葉、鳥取、山口に所有していないものが目立ち、一方北海道松前町では3反以上のものが目立ち、1～3反以下のものは福井に多くみられる。さらに所有山林は各地域ともに所有山林がないと答えたものが目立つが、福井では3反以下のものが一番目立っている。さらに住宅の状況を見ると、その坪数は10～20坪以下のものが多くみられ、一方福井では20～30坪および30坪以上の比較的大きな住宅が目立ち、自家に居住するものがほとんどである。また水源としては井戸を専有しているものが多く、これについて共用しているものがあり、風呂のない世帯が多いものが北海道松前町、福井、山口にみられ、千葉、鳥取では風呂のある家の方が多くみられる。

さらに都市近郊型漁村の耕作地面積をみると、田を所有していないものは各地域にみられるが、愛知は1～3反以下のものが目立っており、畑の所有をみると、持っていないと答えたものが各地にみられ、愛知でも1反以下のものが目立っている。さらに山林についてみると、所有していないものが茨城、愛知、鹿児島にみられるが、一方北海道浜中村では1町以上のものが少数ながらみられる。(D-5表、参照)つぎに住宅についてみると、各地ともに10～20坪以下のものが多くみられるが、自家に居住するものが多く、水源としては井戸を専有している

D-5 耕作地面積別世帯数

型 態	県 名	耕作地面積	田					畑				
			なし	1反 未満	1～ 3反 未満	3反 以上	不明	なし	1反 未満	1～ 3反 未満	3反 以上	不明
閉鎖型漁業	青森・小泊	34					1		25	9	1	
	岩手・重茂	35	6	6	2			5	9	11	24	
	滋賀・沖ノ島	1		7	3			5	2	2		2
	広島・吉和	10						10				
	高知・須崎	8						6				
中間型漁村	長崎・上五島	5	1	1	2	6		2	2	6	5	
	北海道・松前	29		4	1	1		5	2	8	19	1
	千葉・勝浦	12						8	2	2		
	福井・越前	10						1		7	2	
	鳥取・網代	12					2	11	1	1		1
都市近郊型漁村	山口・秋穂	5						3	2			
	北海道・浜中	28					2	22	4	1	1	2
	茨城・大洗	14						13	1			
	愛知・前芝	2		2				1	3			
	鹿児島・志布志	4						4				

D-6表 所有山林面積別世帯数

型 態	山 林 面 積		所 有 面 積				
	県 名	項 目	計	な し	3 反 未 満	5~1町 未 満	1 町 以 上
閉鎖型漁業	青森	小泊	35	34	1		
		岩手・重茂	49	13	2	3	31
		滋賀・沖ノ島	11	6	3		
		広島・吉和	10	10			
		高知・須崎	8	8			
		長崎・上五島	15	6	2	1	2
中間型漁村	北海道	松前	35	29		4	1
		千歳・勝浦	12	8	3	1	
		福井・越前	10	4	5	1	
		鳥取・網代	14	12			1
		山口・秋穂	5	5			
都市近郊型漁村	北海道	浜中	30	23		1	3
		茨城・大洗	14	14			
		愛知・前芝	4	4			
		鹿児島・志布志	4	4			

ものがほとんどであるが、茨城のみは水の便は悪く共同の井戸を使用しているものの方が多くみられる。風呂は北海道浜中村および茨城では有る世帯の方が多くみられるが、一方愛知、鹿児島では風呂のないものが多いとみられる。

10. 家業を始めてからの世代数

家業を始めてからの世代数をみると初代～8代以上まで広がっているが、初代のものは青森長崎に多く、2代のものは岩手、滋賀に、3代のものは長崎に4代のものは広島、高知に多くみられる。また他の業種に一たん就業した後漁村に帰ったものは滋賀および高知、長崎にそれぞれ見られるがその前の業種は乾物店配達人、専職見習、米屋、製造業等である。

中間型漁村の家業を始めてからの世代数をみると初代のものは千歳、鳥取、2代のものは福井、山口、3代のものは北海道松前町および福井に多くみられる。さらに都市近郊型漁村における漁業従業世帯の世代数をみると、北海道浜中村では初代のもの、茨城では2代、愛知では3代、鹿児島では2代のものが多いとみられ、また他の業種に一たん就業した後、漁村に帰ったものの数は北海道浜中村、および愛知に少数ながらみられる。

漁業に従事する年少者の労働実態調査 正誤表

頁	行	誤	正
6	一番下	……小泊漁協組	……小泊漁協組合調
42	下1段	近代型漁村	都市近郊型漁村
"	下2段		
"	6		
43	上2段		
"	下8段		
"	下8段		
"	下1段		
45	上8段		
"	14		
"	下11段		
46	下2段	都市近郊型漁村	都市近郊型漁村
49	上5段		
"	下5段		
50	上10段		

GAa1/1

労働省婦人少年局

女性と仕事の未来



女性と仕事の未来



00765694